

一般科目の概要

「一般科目」の教育目標

自立した実践的技術者に要求される専門的知識および技術の修得に必要な基礎的な学力（論理的な思考力及び表現力、数理的能力、社会および自然に対する理解力、国際的に通用するコミュニケーション力等）と、基礎的な知識や教養の確実な定着を図り、自立した実践的技術者の形成に寄与することを目指します。

「一般科目」の教育内容

教育目標達成のための基礎となる教科を次のように配します。

- 1) 知徳体の調和した豊かな人間性を培い、柔軟かつ総合的に判断を下し実行する能力の基礎を身につけさせる。
「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」「体育」「芸術」
選択科目（「人文社会」「自然」「外国語」）
- 2) 将来の社会の変化に技術者として自立的・主体的に対応できるように、広い視野に立って自ら学び自ら考える力を育成する。
「地理・歴史」「政治・経済」
- 3) 社会や自然環境に及ぼす技術の影響と効果を見極め、将来にわたって技術のあり方に責任を持つと努める技術者倫理の基礎を身につけさせる。
「倫理」
- 4) 日本語力、英語力を高めると共に、論理的に思考し、的確に伝達するコミュニケーション能力を身につけさせる。
「国語」「英語」
- 5) 専門の基礎・基本となる知識を習得させる。
「数学」「物理」「化学」「地学」「生物」

全学科共通の「一般科目」は、1年から5年までのカリキュラム全体の約半分の授業時間数を占めており、低学年ほど「一般科目」の割合が高く、学年が上がるにつれて「専門科目」が増える、という「くさび」型のカリキュラム編成となっています。

高等専門学校では、大学への編入学等で進学するにしても特別の受験勉強は必要ありませんから、「一般科目」を通して5年間でしっかりした「教養」を養うことが目指されています。

自らの専門の基礎をなす土台を作るために、また、視野の広い市民としての見識や感覚を身につけるために、勉学に励む学生にとって頑張りがいのある教育の質を提供したい、と「一般科目」の教官は考えています。「一般科目」の教官は、工学系の領域とは異なるそれぞれの専門領域についての研究活動も行っていますので、学生諸君の主体的な知的好奇心にも幅広く応え得るものと確信します。

平成14年度「一般科目」の授業科目と担当教官

区分	授業科目	単位	開設学									
			1年		2年		3年	4年	5年			
必修	国語	8	2(選択)		2(選択)		2					
			M	E	M	E						
必修	倫理	2					2	全	小林			
	政治・経済	2	1	全	時松	1	全	時松				
必修	地理・歴史	4	2	M	吉岡	2	全	佐藤				
			E	時松・佐藤								
必修	数学	18	6	M	小鉢	6	M	元田・川崎	6	M	小原・小鉢	
			E	五十川	小原	E	野入・川崎	E	小鉢・元田	E	野入・五十川	
必修	物理	4				4	M	北辻				
			C	吉岡		C	吉岡					
必修	化学	4	4	M	上土井							
			E	境								
必修	保健・体育	9	3	全	宅島・四宮	2	全	宅島・四宮	2	全	宅島・四宮	
			C	栗谷・田中								
必修	美術	1	1	全	中野							
	音楽	1				1	全	牧				
必修	英語	18	6	M	宇ノ木・ゲル	5	M	宇ノ木・デビス	5	学	山田・ゲル	
			E	小山・ゲル	松田	E	松田・デビス	習	宇ノ木・ゲル	習	宇ノ木・ゲル	
必修	修得単位小計	71	26		24		17			4		
	文化史	2								2	小林	
必修	文学	2								2	道園	
	法学	2								2	山中	
必修	経済学	2								2	時松	
	哲学	2									2	小林
必修	人文社会特論(語学)	2									2	今西
	人文社会特論(歴史)	2									2	佐藤
必修	健康科学	2									2	宅島・四宮
	地学	2			2	M	平					
必修	生物	2			2	E	平					
	ドイツ語	4									2	目
必修	中国語	4									2	目
	開設単位小計	26			4		12			10		
必修	修得単位小計	6			2		2			2		
	開設単位 合計	97	26		28		17			16		
必修	修得単位 合計	77	26		26		17			6		

・「地学」「生物」…いずれか2単位。・「ドイツ語」「中国語」…4年次はいずれか2単位。・「哲学」「人文社会特論」「健康科学」…いずれか2単位。

授業科目 国語	担当教官 現代文 村田秀明 (M・E) 道園達也 (C・B) 古典 村田由美	開講期 通年																																																																																																
対象学年 1年全	単位数 2単位	必修・選択の別 必修																																																																																																
教科書 「精選新国語Ⅰ.現代文編・古典編」(明治書院 紅野敏郎編) 参考書 「三訂版 スタンダード常用漢字の学習(漢字検定対応)」(桐原書店)																																																																																																		
授業目標 国語を的確に理解し、適切に表現する基本的能力を身につけさせる。 文学・芸術・思想・言語などの広い分野にわたる評論・随筆・小説・詩歌・古典等の文章に触れさせ、読解の過程を通して思考力や感受性を育てる。 さらに国語常識(日本語運用能力)についても、時間をかけて習得させる。																																																																																																		
授業の進め方 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。																																																																																																		
授業内容 前期	授業内容 後期																																																																																																	
<table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>【現代文】</th> <th>【古典】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1週</td><td>日本語運用能力診断</td><td>古文入門</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>随筆文</td><td>説話文学</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>随筆文</td><td>説話文学</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>随筆文</td><td>説話文学</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>小説</td><td>日記と物語文学</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>小説</td><td>日記と物語文学</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>小説</td><td>日記と物語文学</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>(中間</td><td>試験)</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>短歌・俳句</td><td>漢文入門</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>短歌・俳句</td><td>漢文入門</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>評論文</td><td>格言・成句</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>評論文</td><td>故事</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>評論文</td><td>故事</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>評論文</td><td>故事</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>(期末</td><td>試験)</td></tr> </tbody> </table>		【現代文】	【古典】	第1週	日本語運用能力診断	古文入門	第2週	随筆文	説話文学	第3週	随筆文	説話文学	第4週	随筆文	説話文学	第5週	小説	日記と物語文学	第6週	小説	日記と物語文学	第7週	小説	日記と物語文学	第8週	(中間	試験)	第9週	短歌・俳句	漢文入門	第10週	短歌・俳句	漢文入門	第11週	評論文	格言・成句	第12週	評論文	故事	第13週	評論文	故事	第14週	評論文	故事	第15週	(期末	試験)	<table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>【現代文】</th> <th>【古典】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1週</td><td>会話と表現</td><td>史伝</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>会話と表現</td><td>史伝</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>会話と表現</td><td>史伝</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>評論文</td><td>和歌の流れ</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>評論文</td><td>和歌の流れ</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>評論文</td><td>和歌の流れ</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>評論文</td><td>和歌の流れ</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>(中間</td><td>試験)</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>随筆文</td><td>思想</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>随筆文</td><td>思想</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>随筆文</td><td>思想</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>評論文</td><td>随筆と紀行</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>評論文</td><td>随筆と紀行</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>日本語運用能力診断</td><td></td></tr> <tr><td>第15週</td><td>(学年末</td><td>試験)</td></tr> </tbody> </table>		【現代文】	【古典】	第1週	会話と表現	史伝	第2週	会話と表現	史伝	第3週	会話と表現	史伝	第4週	評論文	和歌の流れ	第5週	評論文	和歌の流れ	第6週	評論文	和歌の流れ	第7週	評論文	和歌の流れ	第8週	(中間	試験)	第9週	随筆文	思想	第10週	随筆文	思想	第11週	随筆文	思想	第12週	評論文	随筆と紀行	第13週	評論文	随筆と紀行	第14週	日本語運用能力診断		第15週	(学年末	試験)	
	【現代文】	【古典】																																																																																																
第1週	日本語運用能力診断	古文入門																																																																																																
第2週	随筆文	説話文学																																																																																																
第3週	随筆文	説話文学																																																																																																
第4週	随筆文	説話文学																																																																																																
第5週	小説	日記と物語文学																																																																																																
第6週	小説	日記と物語文学																																																																																																
第7週	小説	日記と物語文学																																																																																																
第8週	(中間	試験)																																																																																																
第9週	短歌・俳句	漢文入門																																																																																																
第10週	短歌・俳句	漢文入門																																																																																																
第11週	評論文	格言・成句																																																																																																
第12週	評論文	故事																																																																																																
第13週	評論文	故事																																																																																																
第14週	評論文	故事																																																																																																
第15週	(期末	試験)																																																																																																
	【現代文】	【古典】																																																																																																
第1週	会話と表現	史伝																																																																																																
第2週	会話と表現	史伝																																																																																																
第3週	会話と表現	史伝																																																																																																
第4週	評論文	和歌の流れ																																																																																																
第5週	評論文	和歌の流れ																																																																																																
第6週	評論文	和歌の流れ																																																																																																
第7週	評論文	和歌の流れ																																																																																																
第8週	(中間	試験)																																																																																																
第9週	随筆文	思想																																																																																																
第10週	随筆文	思想																																																																																																
第11週	随筆文	思想																																																																																																
第12週	評論文	随筆と紀行																																																																																																
第13週	評論文	随筆と紀行																																																																																																
第14週	日本語運用能力診断																																																																																																	
第15週	(学年末	試験)																																																																																																
成績評価の方法 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題等を含めて総合的に評価する。																																																																																																		
学生へのメッセージ 受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 (1)自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2)問から解に至るプロセスを確認する。 (3)自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等について、妥当であったか否かをきちんと見極める。																																																																																																		

授業科目 政治経済	担当教官 時松雅史	開講期 通年 週1時間
対象学年 1年MECB	単位数 単位 1	必修・選択の別 必修
教科書 『政治・経済 新訂版』都留重人ほか 実教出版 参考書 『法とは何か』渡辺洋三 岩波新書 『憲法を読む』小林直樹 岩波新書		
授業目標 1年の政治経済の授業では、近代市民社会における政治的諸原理を理解させる。また、現代の政治や憲法について興味をもたせる。 授業の後半は、国際政治の動向に関心をもたせるために、日本の対外援助の問題やエネルギー問題について理解させる。		
授業の進め方 教科書や授業内容に関連したプリントを読ませながら、内容について解説する。		
授業内容 前期 第1週 国際社会の変容 第2週 社会生活と政治 第3週 政治と国家 第4週 政治の意義 第5週 国民権と議会制民主主義 第6週 基本的人権の保障(1) 第7週 基本的人権の保障(2) 第8週 自由的基本権と社会権的基本権 第9週 夜警国家と福祉国家 第10週 法の支配 第11週 権力分立 第12週 日本国憲法の基本的性格 第13週 日本国憲法の制定過程 第14週 日本国憲法の基本原理 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 日本国憲法と基本的人権(1) 第2週 日本国憲法と基本的人権(2) 第3週 日本国憲法と基本的人権(3) 第4週 社会権としての生存権 第5週 社会権としての労働基本権 第6週 女性と労働 第7週 平和主義と憲法(1) 第8週 平和主義と憲法(2) 第9週 国際政治と日本の対外援助 第10週 経済協力のしくみ 第11週 経済協力の課題 第12週 日本・世界のエネルギー資源 第13週 日本のエネルギー政策 第14週 日本のエネルギー問題と課題 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 定期試験を軸に評価する。また、授業ノートも評価の参考にする。		
学生へのメッセージ 授業中は、解説をよく聞き、疑問点・理解できない点があれば遠慮をせずに質問してほしい。		

授業科目 歴史(地歴)	担当教官 佐藤伸二 時松雅史	開講期 通年 週1時間
対象学年 1年MECB	単位数 単位 2(1)	必修・選択の別 必修
教科書 『世界史B』(改訂版)西川正雄ほか 三省堂 参考書		
授業目標 (イ) 人類の進化や古代文明の発生について学ばせ、人類の未来について考えさせる。 (ロ) 西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・イスラム世界の基礎となっている古代オリエント文明・ギリシャ文明・ローマ文明について理解させる。(なお、東アジア世界については第2学年で、日本史とのからみで取り上げる。) (ハ) 近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。		
授業の進め方 教科書を読ませ、内容について質問し、理解しているかを確認する。理解していない部分については説明する。必要に応じて、関連の資料を配り、その内容を説明する。 尚、前期と後期を佐藤と時松が交代で担当する。		
授業内容 前期 第1週 はじめに(歴史を学ぶ意味) 第2週 人類の進化と未来 第3週 石器製作法の変化 第4週 農耕と牧畜のはじまり 第5週 古代文明の発生 第6週 エジプト文明とメソポタミア文明 第7週 地中海東部沿岸の繁栄 第8週 中間試験 第9週 古代オリエントの統一 第10週 ベルシャ戦争とギリシャ 第11週 ギリシャ文化の特色と東方への広がり 第12週 ローマ文化の特色と帝国の形成 第13週 ローマ帝国の分裂とビザンツ帝国 第14週 イスラム世界の成立 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 ヨーロッパ世界の成立 第2週 ロビンソン・クルーソーの世界 第3週 大航海時代の到来 第4週 大航海時代がもたらしたもの 第5週 カトリック教とカルヴァン主義 第6週 問屋制家内工業とマニュファクチュア 第7週 ロビンソンにみるイギリス社会 第8週 中間試験 第9週 イギリス産業革命 第10週 機械の発明と綿工業 第11週 産業革命がもたらしたもの 第12週 新大陸アメリカへの移住 第13週 アメリカ資本主義の発達 第14週 アメリカ経済の発展と技術革新 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 年4回の定期試験を軸に評価する。		
学生へのメッセージ 教科書を読んでき、歴史地図をよく見ること、話をよく聞くこと。		

授業科目 地理(地歴)	担当教官 吉岡威夫	開講期 通年 週1時間
対象学年 1年MECB	単位数 単位 2(1)	必修・選択の別 必修
教科書 『詳説地理B最新版』山本正三 二宮書店 参考書 地図帳『新詳高等地図』初訂版 帝国書院		
授業目標 世界各地に展開するさまざまな生活のありさまを理解するために生活を支え、あるいは規定するであろう自然環境に関して、基礎的理解を得る。		
学習方法 毎時の予習・復習を勧める。ノートのとまとめ方を指導し、基礎知識の予習ページと授業時の新たな知見ページと復習ページにわけてまとめさせ、定期的にノートを点検し評価する。		
授業の進め方 教科書にある基礎的知識の理解を深めるため、毎時地理資料を準備し、解説を加え、さらにこれらの知識の習得を前提に分布、比較、因果関係など地理学習の3要素をもとに多様な自然環境の理解を深めさせる。		
授業内容 前期 第1週 地理学習の3要素 第2週 地形図で知る郷土八代 第3週 イギリス、アメリカ、フランスの地形図で 第4週 国情を知る。 第5週 日本地形図の歴史 第6週 日本の地図…その視野の拡大 第7週 世界の地図…その視野の拡大 第8週 中間試験 第9週 自然環境と生活 第10週 世界の地形(山脈、河川、平野、高原、 第11週 砂漠) 第12週 世界の海洋と降水 第13週 世界の海洋と降水 第14週 大陸移動説(ヴェゲナー)からプレートテ クトニクス説へ 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 地球の環境問題 第2週 世界の気候区分(ケッペンの気候区分) 第3週 世界の気候区分(熱帯と人類の誕生) 第4週 世界の気候区分(温帯と文明の発達) 第5週 世界の気候区分(砂漠と文明の発生) 第6週 日本人による気候区分(照葉樹林気候) 第7週 日本人による気候区分(照葉樹林文化) 第8週 中間試験 第9週 地球温暖化とその原因(オゾン層と炭酸ガ スの増加 第10週 熱帯林の破壊と熱帯の生活 第11週 酸性雨の増加と冷帯林の減少 第12週 両極地方の氷雪融解と海面上昇 第13週 人類は未来に生き残れるか、その 第14週 対策は? 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 4回の定期試験により、総合的評価を行う。		
学生へのメッセージ 楽しい授業で学生一人ひとりが地理学習が“楽しい”“役立つ”授業をめざしたい。		

授業科目 数 学	担当教官 元田康夫 小原康博 五十川 読 小鉢 暢夫	開講期 通年
対象学年 1年全	単位数 6単位	必修・選択の別 必修
教科書 「新編 高専の数学1(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 参考書 「新編 高専の数学1問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版		
授業目標 初等関数の基本的性質を習得する。 計算力を身につけると同時に、論理的にまた総合的に考える力を養う。		
学習方法 毎日の予習・復習による積み重ねが大事である。教わった項目はすぐに問題 解きを行い、定理・公式等を十分に理解し、その重要さを認識しよう。		
授業の進め方 各項目の説明、定理や公式の証明等を行い、実際に問題を解き理解を深める。 分からないところは積極的に質問すること。		
授業内容 前期 第1週 1章「数と式」§1 整式の加減乗法 第2週 因数分解・整式の除法 第3週 整式の約数・倍数、有理式 第4週 §2 実数、実数の大小関係 第5週 平方根を含む式の計算 第6週 2章「2次の関数・方程式・不等式」 §3 2次関数のグラフ、最大最小 第7週 §4 2次方程式 解の公式、複素数 第8週 (中 間 試 験) 第9週 解の公式、判別式、解と係数の関係 第10週 §5 グラフと方程式の解、不等式 第11週 2次不等式 第12週 3章「命題・等式・関数」 §6 集合と命題 第13週 §7 等式と不等式 恒等式、因数定理、高次の方程式 第14週 §8 関数とグラフ 関数 第15週 (期 末 試 験)	授業内容 後期 第1週 べき関数、分数関数、無理関数 第2週 逆関数 9章「指数関数・対数関数」 §9 指数関数 累乗と累乗根 第3週 指数の拡張、演習 第4週 指数関数 第5週 §10 対数関数 第6週 5章「三角関数」§11 鈍角の三角関数 第7週 一般角と弧度法 第8週 (中 間 試 験) 第9週 §12 三角関数の定義 第10週 §13 加法定理、いろいろな公式 第11週 三角関数の方程式・不等式 第12週 §14 三角形の性質 第13週 7章「個数の処理」 場合の数 第14週 組合せ、二項定理 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 主に各種の試験(定期試験4回、夏季共通試験、その他各教官が行う試験) で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ 週1回補習授業を行います。数学は専門科目の基礎となる重要な科目です。自学 できる力を身につけて、将来の役に立ててください。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。		

授業科目 化学	担当教官 上土井 幸喜 境 雅子	開講期 通年
対象学年 1年 全学年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書 精解化学IB 黒田 晴雄 他 数研出版 問題集 化学IB学習ノート 数研出版 参考書 フォトサイエンス化学図録 数研出版		
授業目標 物質相互間に存在する深い関連性を見出し、系統的かつ総合的に物質を理解する能力を身につけさせる。		
授業の進め方 化学に対する興味と理解を深めるために、各項目の説明に演示実験を加え、さらに数テーマの実験を行う。また、教科書や問題集も解く。		
授業内容 前期	授業内容 後期	
第1週 物質のなりたち 第2週 原子 第3週 イオン結合 第4週 共有結合と分子 第5週 原子量・分子量・式量 第6週 物質質量 第7週 化学反応式 第8週 (中 間 試 験) 第9週 物質の三態 第10週 気体の体積 第11週 気体の状態方程式 第12週 溶解のしくみと溶解度 第13週 希薄溶液の性質 第14週 コロイド溶液 第15週 (前 期 末 試 験)	第1週 熱化学方程式 第2週 ヘスの法則 第3週 酸・塩基とPH 第4週 中和反応 第5週 酸化・還元 第6週 電池 第7週 電気分解 第8週 (中 間 試 験) 第9週 典型元素とその化合物 第10週 遷移元素とその化合物 第11週 有機化合物の分類と分析 第12週 脂肪族炭化水素 第13週 アルコールと関連化合物 第14週 芳香族化合物 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 年4回の定期試験、夏季共通試験、その他小テスト、実験レポート等で評価を行う。		
学生へのメッセージ 授業中の理解を確実にするために、予習・復習は必ず行い、問題意識をもって授業にのぞんで欲しい。教科書や、問題集の問題を自分で解き事項の整理や理解を一層深め、疑問を生じたらそのまま放置しないで、調べたり質問したりして欲しい。		

授業科目 保健体育	担当教官 宅島 章 四宮一郎 栗谷 敦 田中由美子	開講期 通年
対象学年 1年	単位数 3単位	必修・選択の別 必修
教科書 参考書 適宜参考文献、資料等を配布する。		
授業目標および学生へのメッセージ 1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境(運動・栄養・休養)の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。 2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。 4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。		
授業の進め方 1年生の保健体育は、3単位。内2単位は男子、女子を別々にまとめて男子3班、女子1班を編成し、トレーニング実践I(男子のみ)、ハンドボール、陸上競技、バレーボール、ダンス(女子のみ)の4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。		
授業内容 剣道：四宮一郎 [目的] 我が国、古来の武術である剣道を通して伝統文化の伝承と「礼」を学ぶとともに、剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。また、相互に相手を尊重し、闘争的雰囲気の中でも理性を失わず、冷静にして公正な態度を維持し、自己の修養に努める。 [授業内容]：14週(各クラスの修得状況によって進路状況が多少異なる) 基本動作 1. 構えと体さばき、素振り 2. 防具の脱着法と収納法 3. 面打ちと受け方 4. 切り返し 5. 小手打ちと受け方 6. 胴打ちと受け方。 対人的技能 1. 二段、三段の技(小手→面、小手→胴、面→胴、面→面、小手→面→胴など) 2. 払い技(払い面、払い小手、払い胴) 3. 引き技(ひき胴、ひき面、ひき小手) [評価] 伝統文化の理解、実践と基本技及び対人的技能の修得程度によって行う。		
保健：四宮一郎 [目的] 1) 生涯にわたって健康な生活を送るために、私たちの健康を阻害している要因や現代における健康の成立条件について理解を深めさせ、実践できる態度を育成する。2) 健康の保持増進にとって重要な要素である運動・栄養・休養の関係について知識を深めさせ、これからの学生生活に生かせる態度を養う。3) 心と体の関係について知らせ、欲求の拡大する青年期こそが自分を見つめなおす絶好の機会であることを学ばせる。 [授業内容] 1. 健康の考え方(2時間) 2. 生活行動と健康(7時間) 3. 精神の健康(6時間) [評価] 2回の定期試験と出席状況、授業参加態度等を考慮して評価を行う。		

A. トレーニング実践Ⅰ (柔道場) : 田中由美子

[目的] ①健康の維持・増進にとっての運動の必要性を知り、トレーニングの基本を学び自分に応じたトレーニングを日常生活で実践する。②柔軟性に重点をおく

[授業内容]

- 1) 授業方針、評価法の説明、トレーニングの内容と負荷のかけ方、食生活を含めた生活処方
- 2) トレーニング前測定
- 3) 鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング
- 4) トレーニング後測定

[評価] トレーニング効果を確認させるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。

B. 陸上競技 (第1グラウンド) : 栗谷 敦

[目的] ①走・跳・投を通してスポーツの原型を正しく、楽しく身につけさせる。②取り組む種目の記録向上及び技術の上達を目指したい。

[授業内容] 1) 理論: 各種目の特性及び技術について。 2) 実技 ①走の部: スタートダッシュ・リレー・100mハードル・中距離のリレー走 ②跳の部: 走り高跳び、3段跳び ③投の部: 砲丸投げ・ハンドボール投げ ※上記種目をシーズンによって振り分けて実施する。

[評価] 各種目の記録及び技術、理解度を総合して評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も考慮する。

C. ハンドボール (第2グラウンド) : 四宮一郎

[目的] ①ハンドボール競技の特性を理解し、ゲームを楽しむために必要な基本的攻撃・防御技術を身につけ、ゲームに対してはもちろん練習においても創意工夫ができるようにする。②ハンドボールのルールを十分に理解し、お互いに審判ができるようになる。

[授業内容] 1) ハンドボールの特性及びルールの説明 2) 基本技術 (パス・キャッチ、ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート、フェイント) 4) 連携プレー 5) 簡易ゲーム

[評価] パス、キャッチ、シュートの基本的な個人的技術および授業への参加態度および貢献度、出席状況等を総合して評価する。

D. バレーボールⅠ (第2体育館) 宅島 章

[目的] バレーボールⅠでは、基本であるパス (オーバー、アンダー) とレシーブ、アタック、ブロック、サーブの技術を重点的に習得し、後半に技術の習得状況による簡易ゲームを行う。

[評価] 技能テスト: ①頭上オーバーパスと組み手アンダーパスの連続パス (60秒間)。

②1対1でのパス・レシーブ。

その他、授業への取り組み姿勢や授業への貢献度も考慮して評価を行う。

女子: ダンス (第1体育館) 田中由美子

[目的] ①いろいろなダンスに取り組み、踊ることを楽しむ。②好きな曲を選び、仲間と互いに協力して集団性を生かした動きを振り付け、楽しく踊る。

[授業内容] 1) オリエンテーション (授業方針、評価法の説明) 2) ウォーミング・アップ (エアロビクス・ダンス、フォークダンス、社交ダンス等) 3) 創作ダンス (グループダンス)

[評価] グループダンスを創作させ、ビデオ撮影を行い作品を評価する (集団性を生かした動き)。また動きをレポートにまとめ提出させる。さらに出席状況、授業への参加態度も評価に加味する。

水泳 (プール) : 宅島 章、四宮一郎、栗谷 敦、田中由美子

[目標] 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境 (島国) の中で生きていることを再認識させ、泳力の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。

[授業内容] 1) オリエンテーション (心得、目標、評価、入水マナー等について) 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習

[評価] 50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する

授業進度

1期 4/15 ~ 6/3 (6週)

1班 トレーニング実践Ⅰ、2班 陸上競技、3班 ハンドボール、女子 バレーボール

2期 6/17 ~ 10/21 (6週)

1班 バレーボール、2班 トレーニング実践Ⅰ、3班 陸上競技、女子 ハンドボール

3期 11/9 ~ 12/16 (6週)

1班 ハンドボール、2班 バレーボール、3班 トレーニング実践Ⅰ、女子 陸上競技

4期 1/20 ~ 2/17 (5週)

1班 陸上競技、2班 ハンドボール、3班 バレーボール、女子 ダンス

水泳 6/24、7/1、7/8 剣道 4/18 ~ 9/19 保健 10/3 ~ 2/21

授業科目 美術	担当教官 中野和枝	開講期 通年
対象学年 1年全	単位数 1単位	必修・選択の別 必修
教科書 参考書 別になし		
授業目標 絵画や彫刻などの純粋芸術としての「美術」としてより、実社会との深い関わりがある「デザイン」の基礎として『形や色』を基本に実技を主としたものとする。 物体を単純な形にすると立方体や球などの基本形となる。その形には高さや幅や奥行きがある。その比を正確にとらえ、光と影で表現する。また一方、物体には必ず色がある。三原色（赤、青、黄）から生まれる色について学習し、その色が生まれてくる過程や隣り合う色によってその色が変化すること（対比）などを体験する。		
授業の進め方 形は主にデッサンを中心とし、色は、三原色からの12色相環づくり、平面構成など。形と色をまとめたものとして、C、Dジャケットなどの制作を通して「デザイン」の一つの方法を学ぶ。		
授業内容 前期 第1週 オリエンテーション 第2週 明度尺（コンテ鉛筆による） 第3週 石膏体基本形のデッサン 第4週 立方体、球、円柱、円錐など 第5週 〃 第6週 〃 第7週 〃 第8週 〃 第9週 基本形による平面構成（コンテ鉛筆による） 第10週 二次元の平面に三次元の空間を表現する 第11週 〃 第12週 〃 第13週 〃 第14週 色についての話 第15週 12色相環づくり（三原色による）	授業内容 後期 第1週 12色相環づくり（三原色による） 第2週 〃 第3週 〃 第4週 メビウスの輪づくり 第5週 メビウスの輪 デッサン5ポーズ 第6週 メビウスの輪モチーフによる平面構成 第7週 〃 第8週 〃 第9週 〃 第10週 メビウスの輪モチーフによるCDジャケットデザイン 第11週 〃 第12週 〃 第13週 〃 第14週 〃 第15週 〃	
成績評価の方法 各作品の平均点とする。		
学生へのメッセージ 美術の時間は感性を磨くオアシスタイム。楽しく作品づくりをいたしましょう。		

授業科目 英語 I（総合英語）	担当教官 山田 章則 宇ノ木寛文 松田 由美 小山 賢吉	開講期 週5時間通年
対象学年 1年全学科	単位数 5単位	必修・選択の別 必修
教科書 問題集 『NEW HORIZON English Course 1』 伊藤元雄 他 『NEW HORIZON English Course Workbook 1』 『高校英語へのステップ』 『Workbook for Dual Cope - English Grammar in 25 Stages』	参考書 『デュアルスコープ総合英語』（改訂新版） 『データベース 3000 基本英単語・熟語』 田中茂範監修	読み物 『MICHAEL JORDAN』 『The Phantom of the Opera』
授業目標 ：「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎・基本的な運用能力を習得すると共に、自発的な学習習慣を身につけさせる。また、英語学習に加え、外国の文化・習慣に目を向けさせる。		
授業の進め方 ：主に「読み取り・聞き取り」の活動を通じて、学生に英語の基礎を身につけさせ、それを基盤として話したり、書いたりする活動を随時取り入れる。授業での言語活動に対して、学生の積極的な参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与え、比較的長い読み物を英語で読み、鑑賞する機会を作る。各長期休暇後には出された課題をもとに確認テストを実施する。また、語彙力養成のための単語テスト(週1回)や、基礎的な文法事項の習得のための総合問題集による指導も行う。2年生に進級する際には、全員が実用英語技能検定3級の資格を取得できるようにする。		
授業内容 前期 第1週 L1: Speak Out on the Internet L2: When Ants Build High L3: Test Anxiety 第7週 第8週 中間試験 第9週 L4: Colorful Expressions L5: The Girl with the White Flag(1) L6: The Girl with the White Flag(2) 第14週 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 L7: "The World and You" L8: The Lonely Girl L9: The Great Hanshin-Awaji Earthquake 第7週 第8週 中間試験 第9週 L10: The Sandpiper L11: Different Cultures, Different Manners L12: The Boy Who Loved America 第14週 第15週 学年末試験 * Optional Reading 1~Optional Reading 2 の扱いについては、別途指示する。	
成績評価の方法 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査の成績を総合的に評価し、評点を出す。		
学生へのメッセージ ： 高専では、皆さんが予習していることを前提に授業を行います。辞書や参考書を使って、自分の理解できるところと出来ないところをはっきり把握して授業に臨んで欲しいと思います。一日に少なくとも1時間は英語の勉強をして下さい。		

授業科目 English Conversation I	担当教官 Gail Braybrooks	開講期 通年
対象学年 1年全学科	単位数 1単位	必修・選択の別 必修
Textbook: <i>Gateways 1 -- Student's Book</i>		
Authors: Victoria Kimbrough and Irene Frankel		
Publisher: Oxford University Press		
The aim of this subject Listening and speaking needed in everyday, real-world situations. Also, I hope it will give them the confidence to talk with English-speaking people.		
What to study Practical English as used in daily life.		
Teaching methods The students will practice conversation skills in the classroom.		
Contents of the First semester	Contents of the Second semester	
Essential English Introductions Introducing yourself and others Common objects Alphabet and numbers Common occupations Asking about ownership Countries and Cities Times of the day Articles of clothing Talking about clothing, colors And prices Talking about the weather Test Review	Breakfast foods Snack foods Common daily activities Likes and dislikes Personal habits Kinds of restaurants Adjectives of nationality Outdoor and indoor recreation Common stores and services Parts of the body Family members People's employment Common menu items Talking about dates Department store shopping Test Review	
Term Examination	Term Examination	
Evaluation Class participation and 2 semester tests.		
学生へのメッセージ If you put a little energy into this class, you will get a lot out of it. Why don't you try and see? There is a wide, wide world waiting for you outside Japanese!		

授業科目 国語	担当教官 道園達也 村田由美	開講期 通年																																																																																																
対象学年 2年全	単位数 2単位	必修・選択の別 必修																																																																																																
教科書 『新編 国語Ⅱ』(三省堂 金谷 治編) 参考書 「スタンダード常用漢字の学習R (レッド) コース」(桐原書店)																																																																																																		
授業目標 評論、随筆、小説、物語、詩歌、俳諧等、いろいろなジャンルの文章をさまざまな方法で読み解くこと、また、国語の常識、特に言語的要素を習得することによって、1年で身につけた知識や言語感覚、論理的な思考力や文学的な感受性に、さらに広がりや深み、正確さや柔軟性を加える。																																																																																																		
授業の進め方 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。																																																																																																		
授業内容 前期	授業内容 後期																																																																																																	
<table border="0"> <tr> <td></td> <td>【現代文】</td> <td>【古典】</td> </tr> <tr> <td>第1週</td> <td>日本語運用能力診断</td> <td>日記文学</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>随筆文</td> <td>日記文学</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>随筆文</td> <td>日記文学</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>随筆文</td> <td>随筆文学</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>解説文</td> <td>随筆文学</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>解説文</td> <td>随筆文学</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>解説文</td> <td>随筆文学</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td colspan="2">(中 間 試 験)</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>小説</td> <td>諸子の思想</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>小説</td> <td>諸子の思想</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>小説</td> <td>諸子の思想</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>評論文</td> <td>名家の散文</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>評論文</td> <td>名家の散文</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>評論文</td> <td>名家の散文</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td colspan="2">(期 末 試 験)</td> </tr> </table>		【現代文】	【古典】	第1週	日本語運用能力診断	日記文学	第2週	随筆文	日記文学	第3週	随筆文	日記文学	第4週	随筆文	随筆文学	第5週	解説文	随筆文学	第6週	解説文	随筆文学	第7週	解説文	随筆文学	第8週	(中 間 試 験)		第9週	小説	諸子の思想	第10週	小説	諸子の思想	第11週	小説	諸子の思想	第12週	評論文	名家の散文	第13週	評論文	名家の散文	第14週	評論文	名家の散文	第15週	(期 末 試 験)		<table border="0"> <tr> <td></td> <td>【現代文】</td> <td>【古典】</td> </tr> <tr> <td>第1週</td> <td>詩</td> <td>物語文学</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>詩</td> <td>物語文学</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>詩</td> <td>物語文学</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>評論文</td> <td>物語文学</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>評論文</td> <td>物語文学</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>評論文</td> <td>紀行文学</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>評論文</td> <td>紀行文学</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td colspan="2">(中 間 試 験)</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>俳句</td> <td>史記の世界</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>俳句</td> <td>史記の世界</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>随筆文</td> <td>史記の世界</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>随筆文</td> <td>史記の世界</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>解説文</td> <td>発句</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>日本語運用能力診断</td> <td>発句</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td colspan="2">(学 年 末 試 験)</td> </tr> </table>		【現代文】	【古典】	第1週	詩	物語文学	第2週	詩	物語文学	第3週	詩	物語文学	第4週	評論文	物語文学	第5週	評論文	物語文学	第6週	評論文	紀行文学	第7週	評論文	紀行文学	第8週	(中 間 試 験)		第9週	俳句	史記の世界	第10週	俳句	史記の世界	第11週	随筆文	史記の世界	第12週	随筆文	史記の世界	第13週	解説文	発句	第14週	日本語運用能力診断	発句	第15週	(学 年 末 試 験)		
	【現代文】	【古典】																																																																																																
第1週	日本語運用能力診断	日記文学																																																																																																
第2週	随筆文	日記文学																																																																																																
第3週	随筆文	日記文学																																																																																																
第4週	随筆文	随筆文学																																																																																																
第5週	解説文	随筆文学																																																																																																
第6週	解説文	随筆文学																																																																																																
第7週	解説文	随筆文学																																																																																																
第8週	(中 間 試 験)																																																																																																	
第9週	小説	諸子の思想																																																																																																
第10週	小説	諸子の思想																																																																																																
第11週	小説	諸子の思想																																																																																																
第12週	評論文	名家の散文																																																																																																
第13週	評論文	名家の散文																																																																																																
第14週	評論文	名家の散文																																																																																																
第15週	(期 末 試 験)																																																																																																	
	【現代文】	【古典】																																																																																																
第1週	詩	物語文学																																																																																																
第2週	詩	物語文学																																																																																																
第3週	詩	物語文学																																																																																																
第4週	評論文	物語文学																																																																																																
第5週	評論文	物語文学																																																																																																
第6週	評論文	紀行文学																																																																																																
第7週	評論文	紀行文学																																																																																																
第8週	(中 間 試 験)																																																																																																	
第9週	俳句	史記の世界																																																																																																
第10週	俳句	史記の世界																																																																																																
第11週	随筆文	史記の世界																																																																																																
第12週	随筆文	史記の世界																																																																																																
第13週	解説文	発句																																																																																																
第14週	日本語運用能力診断	発句																																																																																																
第15週	(学 年 末 試 験)																																																																																																	
成績評価の方法 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題の提出状況等を含めて総合的に評価する。																																																																																																		
学生へのメッセージ 受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 (1) 自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2) 疑問から解に至るプロセスを確認する。 (3) 自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等について、妥当であったか否かをきちんと見極める。																																																																																																		

授業科目 政治経済	担当教官 時松雅史	開講期 通年 週1時間
対象学年 2年MECB	単位数 単位 1	必修・選択の別 必修
教科書 『政治・経済 新訂版』都留重人ほか 実教出版 参考書 プリント資料配布		
授業目標 2年の政治経済の授業では、市場原理を柱とする現代経済のしくみについて理解させる。さらに日本経済の動きを統計や新聞記事を利用することで理解力を深めていく。		
授業の進め方 教科書や授業内容に関連したプリントを読ませながら、内容について解説する。		
授業内容 前期 第1週 私たちの暮らしと経済 第2週 3つの経済主体 第3週 市場の役割 第4週 需要と供給 第5週 技術進歩と価格の動き 第6週 寡占市場 第7週 市場の限界 第8週 企業の種類 第9週 株式会社と資本市場 第10週 所有と経営の分離 第11週 金融市場と金融機関(1) 第12週 金融市場と金融機関(2) 第13週 中央銀行のはたらき 第14週 金融政策の機能 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 財政政策の機能 第2週 景気の調整 第3週 日本の財政と国債 第4週 国民所得とGDP 第5週 国民所得と福祉 第6週 経済成長と景気変動 第7週 景気変動の原因 第8週 国際分業と貿易 第9週 為替レートのしくみ 第10週 為替レートと貿易 第11週 国際経済の再建 第12週 日本の貿易政策 第13週 日本の農業(1) 第14週 日本の農業(2) 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 定期試験を軸に評価する。また、授業ノートも評価の参考にする。		
学生へのメッセージ 授業中は解説をよく聞き、疑問点やわからない点があれば遠慮せずに質問してほしい。		

授業科目 歴史(地歴)	担当教官 佐藤伸二	開講期 通年 週2時間
対象学年 2年MECB	単位数 単位 2	必修・選択の別 必修
教科書 『日本史B』尾藤正英ほか 東京書籍 参考書 『世界史B』(改訂版)西川正雄ほか 三省堂		
授業目標 東アジアの国際社会の特質(冊封体制)を理解させながら、日本人(日本民族)の起源・近代以前の日本国の成立と発展・琉球王国の成立と発展・蝦夷地の開発について、東アジア世界の歴史の中に正しく位置付けさせる。これを踏まえて近代日本(大日本帝国)の動き(脱亜入欧)について考えさせる。		
授業の進め方 教科書を読ませ、内容について質問し、理解しているかを確認する。理解していない部分について説明する。必要に応じて関連の資料を配り、その内容を説明する。		
授業内容 前期 第1週 初めに(日本の歴史を学ぶにあたって) 第2週 更新世の日本列島 第3週 気候の温暖化と縄文文化 第4週 日本人の起源について 第5週 秦・漢帝国と東アジア世界の形成 第6週 弥生文化と邪馬台国 第7週 騎馬民族の活動と朝鮮半島の情勢 第8週 中間試験 第9週 渡来人と古墳文化 第10週 隋・唐帝国の成立と東アジアの情勢 第11週 倭国から日本国へ 第12週 蝦夷と隼人 第13週 遣唐使の航路と朝鮮半島の情勢 第14週 宋王朝と東アジア貿易圏 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 モンゴル帝国と東西交流 第2週 元寇と南宋知識人の亡命 第3週 倭寇と勘合貿易 第4週 琉球王国の成立と発展 第5週 蝦夷地への倭人の進出 第6週 地理上の発見とイエズス会の活動 第7週 秀吉・家康の対外政策 第8週 中間試験 第9週 新教国のアジア進出 第10週 江戸幕府の貿易統制 第11週 吉宗の政策と蘭学の発展 第12週 欧米列強のアジア進出と開国 第13週 明治初期の対外政策と琉球処分 第14週 日進・日露戦争と日本人のアジア観の変化 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 年4回の定期試験を軸に評価する。		
学生へのメッセージ 教科書を読んでくること。歴史地図をよく見ること。私語をせずに話をよく聞くこと。		

授業科目 数 学	担当教官 野入 隆 元田康夫 小原康博	開講期 通年
対象学年 2年全	単位数 6単位(4)	必修・選択の別 必修
教科書 「新編 高専の数学1(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版	参考書 「新編 高専の数学1(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版	
授業目標 「高専の数学1」の第7章個数の処理の場合の数と二項定理を習得し、 「高専の数学2」の微分積分法に関する部分を説明する。第1章数列、第2章微分法 および第3章積分法を習得する。 学習方法 微分法は最初から新しい概念が入ってくるので、手計算をしっかりと理解を 深めていくこと。		
授業の進め方 必要事項の説明が終わると教科書および問題集、場合によっては配布されたプリントの 問題解きを主体に授業が進められる。 分からないところは積極的に質問すること。		
授業内容 前期 第1週 「新編 高専の数学1」 7章「個数の処理」 §18 場合の数 第2週 組合せ、二項定理 第3週 「新編 高専の数学2」 1章「数列」 §1 等差数列とその和 第4週 等比数列、いろいろの数列 第5週 数学的帰納法 第6週 §2 無限数列とその極限值 第7週 無限級数とその和 第8週 (中 間 試 験) 第9週 2章「微分法」 §3 整式の導関数 関数の極限、微分係数・導関数 第10週 導関数の計算、接線と速度 第11週 §4 関数の増加・減少、極大・極小 第12週 最大値・最小値、いろいろな変化率 第13週 §5 関数の極限、連続性 第14週 積と商の導関数 第15週 (期 末 試 験)	授業内容 後期 第1週 合成関数とその導関数 第2週 §6 対数関数の導関数 第3週 指数関数の導関数 第4週 三角関数の導関数 第5週 §7 増減・極大極小、方程式・不等式 第6週 接線・法線、速度・加速度 第7週 3章「積分法」 §8 不定積分 第8週 (中 間 試 験) 第9週 置換積分・部分積分 第10週 いろいろな関数の不定積分 第11週 §9 定積分 第12週 置換積分・部分積分 第13週 §10 定積分の応用 面積 第14週 体積 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う 試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ 微分の導入部分をしっかりと理解すること。 1年で習った初等関数の基本的性質を十分に理解しておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。		

授業科目 数 学	担当教官 野入 隆 川崎信夫	開講期 通年
対象学年 2年全	単位数 6単位(2)	必修・選択の別 必修
教科書 「新編 高専の数学1(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版	参考書 「新編 高専の数学1問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版	
授業目標 代数系列を習い空間図形とベクトルまでを習得する。 1次曲線、2次曲線の基本的事項を講義し、平面および空間図形の基本的性質を ベクトルを用いて取り扱う。 学習方法 ベクトルは図形を書くことを大事にし、代数的な計算方法をマスターするつもりで 勉強すること。		
授業の進め方 基本事項の説明が終わると教科書を中心に問題解きを行う。 分からないところは積極的に質問すること。		
授業内容 前期 第1週 「新編 高専の数学1」 6章 「平面上の図形」 §15 直線上の点の座標 第2週 平面上の点の座標 第3週 直線の方程式 第4週 2直線の関係 第5週 §16 円と2次曲線 円 第6週 円(続き) 第7週 だ円 第8週 (中 間 試 験) 第9週 双曲線・放物線 第10週 2次曲線 第11週 §17 不等式の表す領域 第12週 領域における最大・最小 第13週 「新編 高専の数学2」 4章 「ベクトルと図形」 §11 ベクトル 第14週 ベクトルの演算 第15週 (期 末 試 験)	授業内容 後期 第1週 点の位置ベクトル 第2週 ベクトルの内積 第3週 平行四辺形の面積、演習 第4週 §12 平面のベクトルと図形 ベクトルの成分 第5週 内積、直線とベクトル 第6週 直線と法線ベクトル 第7週 円とベクトル、演習 第8週 (中 間 試 験) 第9週 §13 空間の座標 第10週 空間のベクトルの成分 第11週 内積 第12週 直線の方程式 第13週 平面の方程式 第14週 点・直線と平面の関係、球の方程式 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う 試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ 特にベクトルの概念は初めてであるので演習をしっかりと行い、理解を深めること。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。		

授業科目 物 理	担当教官 北辻 安次 吉沖 周三	開講期 通年
対象学年 2年 全学年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書 新物理IB 中村英二 他著 第一学習社 問題集 物理IB 学習ノート 改訂版 数研出版		
授業目標 項目としては、力学、熱、波動に関する基礎的項目の理解と習得を目指す。全般的には、物理的概念の把握と、現象に対する物理的なアプローチの方法、分析的思考を少しでも身につけることを目標とする。		
授業の進め方 使用する教科書に沿って授業を行うが、適宜、実験を演示することにより理解をうながす。また、学生自身による実験も進度に応じて実施する。項目の進度に応じて教室で問題解答例と添削を行う。		
授業内容 前期	力学 第1週 等速直線運動 第2週 速度の合成と分解 第3週 速度と加速度、等加速度運動 第4週 落下運動 第5週 力の合成と分解 第6週 力のつり合い 第7週 運動の法則 第8週 (中 間 試 験) 第9週 摩擦のある運動 第10週 運動量と力積 第11週 運動量保存法則 第12週 仕事、仕事率 第13週 運動エネルギー・位置エネルギー 第14週 力学的エネルギー保存法則 第15週 (前 期 末 試 験)	授業内容 後期 熱と波動 第1週 温度と熱、比熱と熱容量 第2週 熱の仕事当量 第3週 内部エネルギー、断熱変化 第4週 波動と正弦波 第5週 縦波と横波 第6週 重ね合わせの原理と干渉 第7週 波の反射・屈折・回折 第8週 (中 間 試 験) 第9週 音速・音波の性質、うなり 第10週 弦の振動と気柱の振動 第11週 ドップラー効果 第12週 光速、光の反射・屈折 第13週 回折格子、薄膜による干渉 第14週 光のスペクトル、レンズの公式 第15週 (学 年 末 試 験)
成績評価の方法 年4回の定期テストで主に学習及び習得度の評価を行うが、その他に随時行うテストや、実験レポート、感想文などの提出物の評価及び授業参加の態度などの平常の評価を加えて総合的に評価を行う。		
学生へのメッセージ 学生は、教科傍用の問題集を利用して、各自ですすんで自宅学習を行うことが必用不可欠である。授業においては、物理的概念の把握を目標とするので、復習、問題解答、実験及び観察を通じてそれらを自分のものとするように自ら努力する。		

授業科目 保健体育	担当教官 宅島 章 四宮一郎 栗谷 敦 笹本勝義	開講期 通年
対象学年 2年	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書 参考書 適宜参考文献、資料等を配布する。		
授業目標および学生へのメッセージ 1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境(運動・栄養・休養)の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。 2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。 4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。		
授業の進め方 2年生は男子、女子を別々にまとめて男子3班、女子1班を編成し、トレーニング実践Ⅱ、手具体操・救急法、バドミントン、バレーボールの4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。		
授業内容 A. トレーニング実践Ⅱ(柔道場): 四宮一郎 [目的] トレーニング実践Ⅱでは、トレーニング実践Ⅰを基礎として、各種スポーツに必要な筋力、柔軟性を高めることに重点を置いて展開し、トレーニング効果をjついで気づかせると同時に、日常生活で実践できる能力と態度を育てる。 [授業内容] 1) オリエンテーション(授業の目標・心得等)、トレーニングの内容と負荷のかけ方 2) トレーニング前測定 3) バーベル、鉄アレーを用いたサーキットトレーニング 4) トレーニング後測定 [評価] トレーニング効果をj確認させるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。 B. 救急法・伝承文化遊具(第1体育館、グランド): 栗谷 敦 [目的] 救急法: 心配蘇生法を学ぶことによって人命の尊さ、命の大切さを認識させ、非常時の応急手当てを身につけさせる。 伝承文化遊具(なわとび、けんだま、ちょんかけ): 日本古来から受け伝えられた遊戯を身につけることによって童心にかえり、その良さを認識し後世に受け継がせたい。 [授業内容] 救急法: 心配蘇生法及び緊急時の対処法、ビデオ及びダミーによるグループ指導。 伝承文化遊具: 基本の反復練習。段階を経て高度な技術を修得する。※3種目をグループによる展開。 [評価] 技術の習熟度及び理解度を総合して評価する。 C. バレーボールⅡ(第2体育館): 宅島 章 [目的] バレーボールⅡは、バレーボールⅠでの基礎技術の上に、トス・スパイク・サーブを取り込んだ、応用技術を加え、試合へと展開する。 [評価] チームにおける自己の役割を認識し、チームへの貢献度と総合的技術度。その他、授業への貢献度、授業の服装や態度、出席状況等を考慮する。		

D. バドミントン (第1体育館) : 笹本勝義

【目的】 1) 減速性の大きいシャトルをラケットを用い、ネットを挟みコート両サイドで交互に打ち合う競技であり、規定のコート内にシャトルを打ち返せない時に勝敗がつく。従って、相手が返し損ねるように打つ技能と、相手の打球を捕らえに行く移動の技能を修得し、それらをダブルスやシングルの形態でプレーできるようにする。 2) ゲームに参加していくための意欲や関心、態度、そして自分の健康や安全への配慮、又、集団としての健康や安全などに配慮する態度を養う。

3) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

【授業内容】 1) オリエンテーション (授業の目標・心得等)、グループ分け 2) フライトの基本練習 (ドライブ、クリアー、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン)、半面ゲーム 3) 基本技術の練習 (フライトサーブ、フットワーク)、半面の簡易ゲーム 4) フライトの練習 (各種連続)、正式ルールの説明と試合運営全般 試合 5) シングルス、ダブルスの試合 (ランク別リーグ戦) 評価

6) シングルス、ダブルスの試合 (ランク別リーグ戦) 評価 7) 団体戦の試合、理論のテストとアンケート調査 まとめ 評価

【評価】 1. 基本技能とゲーム結果の総合評価 2. 授業への参加態度 (意欲・協調性・積極性・ルールを守る態度) の評価 3. 健康な生活への取り組みと実践的態度の評価

水泳 (プール) : 宅島 章、四宮一郎、栗谷 敦、笹本勝義

【目標】 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境 (島国) の中で生きていることを再認識させ、泳力の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。

【授業内容】 1) オリエンテーション (心得、目標、評価、入水マナー等について) 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習

【評価】 50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する

授業進度

1期 5/1 ~ 6/19 (7週)

1班 トレーニング実践II、2班 救急法・伝承文化遊具、3班 バドミントン、女子 バレーボールII

2期 9/4 ~ 10/23 (7週)

1班 救急法・伝承文化遊具、2班 バドミントン、3班 バレーボールII、女子 トレーニング実践II

3期 10/30 ~ 12/18 (7週)

1班 バドミントン、2班 バレーボールII、3班 トレーニング実践、女子 救急法・伝承文化遊具

4期 1/15 ~ 2/19 (7週)

1班 バレーボールII、2班 トレーニング実践II、3班 救急法・伝承文化遊具、女子 バドミントン

水泳 7/3、7/10、7/18

授業科目	音 学	担当教官	牧 智信	開講期	通年
対象学年	2年全	単位数	1単位	必修・選択の別	必修
教科書	「学生のための『音楽と鑑賞』」(市川都春・滝本泰三 教育芸術社)				
参考書	自作プリント資料 「音楽史による作曲家と時代背景」				
授業目標	音楽の美しさ楽しさにふれ、音楽鑑賞から得た体験をとうして、これからの生活に潤いが生まれ、生涯学習の一助となる知識と感性を養う。				
授業方針	音楽史と大作曲家による名曲鑑賞を主内容とし、名曲の鑑賞を通して音楽家に親しみ、その生涯と時代背景などを理解しながら多面的な学習を行う。				
学習方法	名曲鑑賞を毎時実施する。音楽史をひもときながら、各時代を代表する作曲家の生涯や作品 (歌曲・ピアノ曲・器楽曲・交響曲等のジャンル別の分類や特徴) を音楽や映像を通して理解を深める。				
授業の進め方	音楽史をひもときながら、各時代を代表する作曲家の生涯や作品 (交響曲、器楽曲、歌曲等のジャンル別の分類や特徴) を音楽・映像を通して理解を深める。				
授業内容 前期	第1週 音楽の基本事項。名曲の紹介 (テーマ) 第2週 中世・16世紀の音楽。グレゴリオ聖歌 第3週 教会音楽 第4週 バロックとロココ音楽 第5週 ビバルディ 第6週 バッハ、ヘンデルの音楽と人柄 第7週 同上 第8週 中間試験 (実施せず) 第9週 同上 第10週 古典派の音楽の特徴 第11週 ハイドンの音楽 第12週 モーツァルトの音楽 第13週 同上 第14週 モーツァルト 第15週 期末試験 (実施せず)		授業内容 後期		
			第1週 ベートーヴェンの音楽と音楽史上の位置 第2週 同上 (交響曲) 第3週 同上 (同上) 第4週 同上 (協奏曲) 第5週 同上 (独奏曲) 第6週 シューベルトの音楽、ロマン派の音楽 第7週 同上 第8週 中間試験 (実施せず) 第9週 ウェーバーの歌劇 第10週 ロッシーニ・ベルディ 第11週 メンデルスゾーン 第12週 シューマン・ショパン・リストのピアノ音楽 第13週 シュトラウス、ブラームスの音楽 第14週 チャイコフスキー、ドボルザーク、グリーグ 第15週 学年末試験 (年一回)		
成績評価の方法	学年末試験、レポート、授業参加、関心等を総合して行う。				
学生へのメッセージ	日常満ちている音楽を愛好するとともに、クラシック音楽の持つ深い味わいを身につける手助けをする。				

授業科目 英語II (総合英語)	担当教官 松田 由美 山田 章則 宇ノ木寛文 関 文雄	開講期 通年
対象学年 2年全学科	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書: 『POLESTAR English Course II』 問題集: 『Workbook for POLESTAR English Course II』 参考書: 『高校総合英語 Bloom』 『データベース 3000 基本英単語・熟語』 読み物: 『Robinson Crusoe』 『Black Beauty』	石黒昭博 他 高橋邦年 他 田中茂範 Daniel Defoe Anna Sewell	数研出版 数研出版 桐原書店 桐原書店 桐原書店 桐原書店 桐原書店
授業目標 基礎的コミュニケーション能力育成のために、英語Iで習得した「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能についていっそうの充実を図る。また、基本的な文法事項の定着を図り、語彙力を増強させる。		
授業の進め方 平常の授業(特に、授業中のコミュニケーション活動など)においては、学生の授業への積極的な参加を重視する。「読むこと」に関しては、確実に予習がなされていること。長期休暇中には、英語の読み物を課し、独力でまとまった英文を読めることを目指す。各休暇明けには、課題テストを実施する(具体的な課題は授業中に指示)。併せて、週1回の語彙力増強のための単語テストや週末の発展的な課題を課す。これらに対する確実な取り組みによって、3年生進級時には、全員が実用英語検定試験準2級には合格していることを望む。		
授業内容 前期 第1週 L1: RASCAL THE RACCOON L2: ABORIGINAL PEOPLE AND THEIR PAINTINGS L3: BOB GELDOFF AND LIVE AID 第7週 第8週 中間試験 第9週 L4: BEING ORIGINAL L5: IN MEMORY OF MR. RYOTARO SHIBA L6: FUTURE ENERGY RESOURCES 第14週 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 L7: THE VOICES OF AIDS L8: CHOOSING A CAREER L9: CAPTAIN OF HIS SHIP 第7週 第8週 中間試験 第9週 L10: ON SIGMUND FREUD, FROM SOPHIE'S WORLD L11: CHALLENGE FOR THE 21st CENTURY 第14週 第15週 学年末試験 * Reading 1~Reading 3の扱いについては、別途指示する。	
成績評価の方法 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査の成績を総合的に評価し、評点を出す。		
学生へのメッセージ 英語の基礎作りのための仕上げの年です。3年生以降での応用力を積み上げていくためにしっかりと土台を築いてください。		

授業科目 English Conversation II	担当教官 G. A. Davies	開講期 通年
対象学年 2年全学科	単位数 1単位	必修・選択の別 必修
Textbook: <i>Gateways 2 - Student's Book</i> Authors: Victoria Kimbrough and Irene Frankel Publisher: Oxford University Press		
The aim of this subject: Is to develop the practical use of English conversational skill. To direct the students' attention to essential information in the conversation and let them know they can get the gist of a conversation without knowing every word.		
Teaching methods: Consist of a variety of oral-exchange exercises, fill-in exercises, completion exercises and written exercises based on authentic tasks. These are followed by exercises that personalize the practice.		
Contents of the First Semester 1. Basic vocabulary sets 2. Asking and answering general information 3. Adjectives used to describe personality 4. Using physical descriptions to identify people 5. Verbs used in giving directions 6. Asking for and giving directions 7. Features of rooms, furniture and appliances 8. Talking about homes 9. Describing places, foods and hotels 10. Aspects of people, nightlife, hotels etc. 11. Famous people and places 12. Talking about movies 13. Common vacation activities 14. Vacation places 15. Major life events Term Examination	Contents of the Second Semester 1. Phone conversations 2. Hotel rooms 3. Hotel locations 4. Expressing surprise 5. Expressing interest 6. Vacation and leisure-time activities 7. Talking about future plans 8. Picnic foods 9. Important life events 10. Phrases used in giving excuses 11. Likes and dislikes 12. Describing feelings and emotions 13. How one feels and why 14. Making predictions 15. Future time expressions Term Examination	
Evaluation Is by the used of tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion.		
What I want the students to study Is the practical use and skills of English conversation in everyday authentic tasks such as seeking and using transportation, housing and employment.		

授業科目 生物学	担当教官 原嶋 修一	開講期 通年
対象学年 2年 生物工学科	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書 新生物 I B (第一学習社) 参考書 フォトサイエンス 生物図録 (数研出版)・1年次購入済み		
授業目標 生物に関する基本的知識を身につけ、生命について理解する。生物の構成する物質の特徴を学習し、さらに生命の基本単位である細胞の構造の概略を学習する。遺伝現象および生命の連続性を支える生殖と発生、生命活動の源である物質代謝について理解する。(詳細については、専門科目でより深く生物学に必須な遺伝子発現については、その概略を理解する。(詳細については、専門科目でより深く学習するので、生物学ではそれらの基本事項として、確実な理解を目指す。))		
授業の進め方 高等学校での「生物 I B」の内容に準拠し、生物学の基本的事項を講義する。必要に応じて、参考書を用い、生命現象について、そのメカニズムを解説する。		
授業内容 前期 第1週 「生物学」の学習にあたって 生物の5界 (生物のおおまかな分類) 第2週 生物とは? 生命の基本単位:細胞 第3週 さまざまな細胞・組織・器官 第4週 細胞の構造、細胞小器官のはたらき 第5週 “ 第6週 生体を構成する物質とその特徴 第7週 “ 第8週 中間試験 第9週 (答案の返却と解説) 細胞の増え方:体細胞分裂 第10週 減数分裂・遺伝物質と染色体 第11週 いろいろな生殖法 第12週 無性生殖と有性生殖 第13週 配偶子形成 (動物・植物) と受精 第14週 生物の生活環 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 (答案の返却と解説) 動物の発生・その過程 第2週 <VIDEO> 発生過程の観察 第3週 動物発生のしくみ/クローン動物 第4週 植物の発生 第5週 生体内での物質とエネルギーの代謝 第6週 同化と異化とは? 第7週 酵素の性質と酵素反応 第8週 中間試験 第9週 (答案の返却と解説) 同化~光合成研究のながれ 第10週 光合成のしくみ、条件 第11週 異化~酵素呼吸・無気呼吸 第12週 メンデルの遺伝の法則 第13週 遺伝子と染色体、変異 第14週 遺伝子発現・タンパク質の生合成 第15週 学年末試験 (答案の返却と解説)	
成績評価の方法 主に4回の定期試験で評価する。レポートや授業態度も加味する。		
学生へのメッセージ 毎回、必ず復習すること。復習は短時間で済むので授業した部分については必ず復習し理解につとめること。わからない部分は、積極的に質問して欲しい。		

授業科目 地学	担当教官 平 晋一郎	開講期 通年
対象学年 2年 MEC	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書 地学 I B 海野和二郎、上田誠也、鎮西清高他10名 東京書籍 参考書		
授業目標 宇宙の構成や太陽系の運動、地球の歴史と地球表面の諸現象の基礎的な知識を習得し、地球環境保全や災害防止に対する科学的な思考能力を養う。		
授業の進め方 地球の内部から、地球表面、大気、天体と順をおってその成り立ちやはたらきを学習していく。		
授業内容 前期 第1週 地球の形と内部構造 第2週 地球の形と内部構造 第3週 動く大地 第4週 動く大地 第5週 地震—プレートのきしみ 第6週 地震—プレートのきしみ 第7週 火山の噴火とマグマの活動 第8週 中間試験 第9週 地表の変遷 第10週 地表の変遷 第11週 地球の過去を読む 第12週 造山運動 第13週 地球環境と生物界の変遷 第14週 地球環境と生物界の変遷 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 気温と気圧 第2週 気温と気圧 第3週 雲と雨 第4週 雲と雨 第5週 空気は地球をめぐる 第6週 空気は地球をめぐる 第7週 天気予報 第8週 中間試験 第9週 四季の気象 第10週 海洋 第11週 惑星の世界 第12週 惑星の世界 第13週 太陽の世界 第14週 恒星の世界 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 主に4回の定期試験で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ つとめて野外の自然に接し、ミクロからマクロまで良く観察し、自然界のバランスと開発、自然破壊、自然環境保全などに関して充分考えてもらいたい。		

授業科目 国語	担当教官 村田秀明	開講期 通年
対象学年 3年全	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書 自主教材プリント（読解力・日本語運用能力養成関係教材） 参考書 『国語表現ハンドブック』（明治書院 長谷川泉編）		
授業目標 (1) 様々の評論文を読み、筆者の主張に到達できる読解力を身につける。 (2) 評論文が提起する「現代」が抱える問題についての知識と論理的思考力を身につける。 (3) 社会人として必要な日本語運用能力を身につける。		
授業の進め方 演習とその確認を中心に行う。		
授業内容 前期 【評論】 第1週 「日本語運用能力」診断 第2週 「国際化」関連1 第3週 「国際化」関連2 第4週 「国際化」関連3 第5週 「国際化」関連4 第6週 「現代医学」関連1 第7週 「現代医学」関連2 第8週 (中間試験) 第9週 「地球環境」関連1 第10週 「地球環境」関連2 第11週 「地球環境」関連3 第12週 「地球環境」関連4 第13週 「教育」関連1 第14週 「教育」関連2 第15週 (期末試験)	【日本語力】 文字・語句の使い方 文字・語句の使い方 文字・語句の使い方 文字・語句の使い方 言葉のきまり 言葉のきまり 言葉のきまり 言葉のきまり 敬意の表し方 敬意の表し方 敬意の表し方 敬意の表し方 試験	授業内容 後期 【評論】 第1週 「学問」関連1 第2週 「学問」関連1 第3週 「学問」関連1 第4週 「学問」関連1 第5週 「学問」関連1 第6週 「社会」関連1 第7週 「社会」関連2 第8週 (中間試験) 第9週 「社会」関連3 第10週 「社会」関連4 第11週 「情報」関連1 第12週 「情報」関連2 第13週 「情報」関連3 第14週 「日本語運用能力」診断 第15週 (学年末試験)
成績評価の方法 年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。		
学生へのメッセージ 受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチし、評論文が提起する「現代」が抱える問題についての知識と論理的思考力を身につけよう。また、自分の日本語運用能力補強を行って、社会人として必要な実用国語を身につけよう。		

授業科目 倫理	担当教官 小林幸人	開講期 通年
対象学年 3年 全科	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書 『哲学・倫理学概論』（学術図書出版社） 参考書 授業中に紹介します。		
授業目標 倫理学とは、「人の理」を追求する学問であり、問いを立てる私たち自身が対象であり、そこで問われるのは、私たち自身の人間理解です。従って、他ならぬ私たち自身を深く内省するとともに、私たちのおかれている歴史的な脈絡そのものを問題としなければなりません。 この講義では、思想史を通じ、様々な考え方を理解した上で、他者と共に生きる人間の在り方を、自分自身の問題として考察することを目標とします。		
授業の進め方 前期は、哲学的思考になれるために、初期ギリシア哲学を中心に、その考え方を紹介します。後期は、現代社会における様々な問題を、倫理的にアプローチします。		
授業内容 前期 第1週 ガイダンス：倫理学について 第2週 倫理学・哲学的方法について 第3週 世界の捉え方：神話と哲学 第4週 初期ギリシア哲学（1） 第5週 初期ギリシア哲学（2） 第6週 ソクラテスの思想（1） 第7週 ソクラテスの思想（2） 第8週 中間試験 第9週 プラトンの思想（1） 第10週 プラトンの思想（2） 第11週 アリストテレスの思想（1） 第12週 アリストテレスの思想（2） 第13週 倫理・哲学と人間 第14週 総括 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 人間とは何か：さまざまな定義 第2週 人格としての人間 第3週 現代の人間観 第4週 人間形成・自己形成（1） 第5週 人間形成・自己形成（2） 第6週 文化と人間（1） 第7週 文化と人間（2） 第8週 中間試験 第9週 現代社会の諸問題（1） 第10週 現代社会の諸問題（2） 第11週 環境と人間（1） 第12週 環境と人間（2） 第13週 科学技術と人間の未来 第14週 総括 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 授業態度、試験、レポート等で評価する。試験は論述式で行う予定。		
学生へのメッセージ 他の科目と問題の立て方がかなり異なるため、はじめは戸惑うかもしれません。毎回、質問票を配りますので、分からないことは必ず訊いてください。また、学内のホームページを利用した授業の補完も予定していますので、そちらも活用してください。		

授業科目 数 学	担当教官 野入 隆 小原康博 五十川読 小鉢暢夫	開講期 通年
対象学年 3年全	単位数 6単位(4)	必修・選択の別 必修
教科書 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版	参考書 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版	
授業目標 前期はまず、「高専の数学2」の第3章積分法の定積分の応用を説明する。平均値の定理からテイラーの定理までをまず習得し、いろいろの不定積分を習得する。後期で定積分の応用および偏微分と重積分を習得する。	学習方法 1変数関数については積分の計算が主体ではあるが、2年のときに比べて、より理論的な面から導入される。さらに高度な応用数学へとつながっていきます。後で困らないようにしっかり計算して理解を深めておくこと。	
授業の進め方 基本事項の説明が終わると教科書の問題、問題集あるいは用意されたプリントの問題 解き等を行う。		
授業内容 前期 第1週 「高専の数学2」 3章 積分法 §10「定積分の応用」 面積 第2週 体積 第3週 「高専の数学3」 1章「微分法」 §1 第2次導関数と曲線の凹凸 第4週 逆関数 第5週 逆三角関数と導関数 第6週 曲線の媒介変数方程式 第7週 極座標と曲線 第8週 (中 間 試 験) 第9週 §2 平均値の定理 第10週 不定形の極限值 第11週 §3 べき級数、高次導関数 第12週 テイラーの定理 第13週 2章「積分法」 §4 主な関数の不定積分 第14週 分数関数・三角関数の積分 第15週 (期 末 試 験)	授業内容 後期 第1週 §5 定積分とその応用 和の極限值としての定積分 第2週 面積・体積 第3週 曲線の長さ 第4週 広義積分 第5週 3章「偏微分と重積分」 §6 2変数関数 偏導関数 第6週 合成関数の偏導関数 第7週 (中 間 試 験) 第8週 (中 間 試 験) 第9週 2変数関数の平均値の定理 第10週 §7 応用 2変数関数の極大・極小 陰関数定理 条件付き極大・極小 第11週 陰関数定理 第12週 条件付き極大・極小 第13週 §8 重積分 第14週 極座標による重積分 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う 試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ 1年で習った初等関数の基本的性質および2年で習った微分法・積分法の 基本的性質を十分に理解しておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。		

授業科目 数 学	担当教官 元田康夫 五十川読 小鉢暢夫	開講期 通年
対象学年 3年全	単位数 6単位(2)	必修・選択の別 必修
教科書 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版	参考書 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版	
授業目標 前期で行列と行列式の基本的事項を、後期で行列の固有値と対角化および 微分方程式を習得する。	学習方法 行列は線形写像として捕らえられることを理解せよ。 微分方程式はただひたすらに問題解きを行いなさい。	
授業の進め方 基本事項の説明が終わると教科書、問題集あるいは配布されたプリントの問題解きを行う。		
授業内容 前期 第1週 「高専の数学2」 5章 行列と行列式 §14 行列 第2週 行列の積 第3週 逆行列 第4週 連立1次方程式 第5週 §15 1次変換 第6週 1次変換 第7週 1次変換の積 第8週 (中 間 試 験) 第9週 1次変換の逆変換 第10週 行列式の定義 第11週 行列式の性質 第12週 行列式の展開と積 第13週 逆行列と連立1次方程式 第14週 掃きだし法 第15週 (期 末 試 験)	授業内容 後期 第1週 §17 連立同次1次方程式 固有値と対角化 第2週 固有値と対角化 第3週 対称行列と直行列列 第4週 「高専の数学3」 4章 微分方程式 §9 1階微分方程式 微分方程式と解 変数分離形 第5週 変数分離形 第6週 変数分離形(続き) 第7週 同次形 第8週 (中 間 試 験) 第9週 線形微分方程式 第10週 完全微分形 第11週 §10 2階微分方程式 1階微分方程式になおす方法 (続き) 第12週 定数係数2階線形微分方程式 第13週 (続き) 第14週 (続き) 第15週 (学 年 末 試 験)	
成績評価の方法 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う 試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。		
学生へのメッセージ 2年で習った平面や空間の図形とベクトルの基本的な定義や公式を十分に 理解しておくこと。最後に微分方程式もやるので不定積分の計算が出来る ようになっておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。		

授業科目 保健体育	担当教官 宅島 章 河野宗夫	四宮一郎 笹本勝義	開講期 通年
対象学年 3年	単位数 2単位	必修・選択の別 必修	
教科書 参考書 適宜参考文献、資料等を配布する。			
授業目標および学生へのメッセージ 1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。 2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。 4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。			
授業の進め方 3年生の保健体育は、男子3班、女子1班を編成し、テニス、サッカー、バスケットボール、ニュースポーツの4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。			
授業内容 A. テニス（第1、第2テニスコート）：宅島 章 [目的] テニスの醍醐味は、基本であるストローク、スマッシュ、サーブを修得し、ゲームを経験しなければ味わうことはできない。そのためには、①ラケットさばき、②グランドストロークでのボールの捉え方、スマッシュ、サーブ等の技術を早く身に付け、ゲームが早くできるように授業を展開したい。授業の進捗は、パートナーとの技量度によって異なる。お互いに教え、励ましあい、より高度な技術をマスターして欲しい。 [評価] 技術：パートナーとのグランドストロークによって技術の習得程度を評価する。その他、授業への貢献度、授業の服装や態度、出席状況等を考慮する。 B. サッカー（第2グラウンド）：四宮一郎 [目的] 1) ミニサッカーの個人的技術および集団的技能を学び、ミニサッカーの特性を生かしたゲームを楽しめるようにする。 2) ミニサッカーに必要なルールを学び、審判はもちろん、ゲームの管理・運営ができる能力を養う。 [授業内容] ○授業時の心得と約束、班編成 ○基本技術：パス・ドリブル・フェイント・シュート等 ○2対2、3対3の攻防 ○リーグ戦 [評価] 技術の習熟度、ゲームにおけるマナー、授業への参加態度、授業への貢献度、出席状況等を総合して評価する。 C. バスケットボール（第1体育館）：河野宗夫 [目的] 基本技を重視し、特にパス、シューティングの技能を高め楽しくゲームが出来るようにすると同時に、バスケットボール競技の特性を生かし集団技の面白さとチームをまとめることの大切さ等を理解させる。 [授業内容] 6つのグループを編成し、班別学習で行う。各班はチーム名とキャプテンを決め、第3週目より特別ルールによるリーグ戦を行う。			

○バスケットボールの歴史及びルールの説明 ○バスケットボールに必要なフットワーク・ランニング及びダッシュ、ストップターン、ピボットの使い方など・ディフェンスのフットワーク（スライドステップ、クロスステップなど）○パス・対人パス・縦列パス（ランニング手渡しパスなど）・三角パス、四角パスなど○シューティング・ドリブルシュート・ランニングシュート・リバウンドシュート、フリースロー、ジャンプシュートなど○2対3及び3対3の攻防○ゲームの進め方及び審判法
 [評価] 技能習得の進歩を実技テストと、出席及び授業への参加態度を考慮して評価する。

D. ニュースポーツ（野球場、第2体育館）：笹本勝義

[目的] 1) 最近のスポーツが勝つためのスポーツから楽しむためのスポーツ、又生きがいのためのスポーツへと大きな変革を迎えようとしている。現在の人生豊かな背景に著しい運動不足が健康に危機感を抱かせている。そこで健康・体力増進が人間の幸福を左右する重大な要素に気づき始めたのである。

このニュースポーツはソフトボールをティーボールに、バレーボールをソフトバレーに、又投てきとしてフリスビーを実施し、各スポーツの技術を長時間かけてマスターすることなく、誰でも、いつでもどこでも手軽にできるスポーツとして楽しめるのである。その楽しさが意欲や関心を増し、健康づくりや仲間づくりへと発展する態度を養うことを目的とする。

2) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

[授業内容] 1) ティーボール（3週）：①オリエンテーション（目標、心得）、ルールと基本練習 ②基本練習と試合 ③試合 評価 2) グランドゴルフ（2週）：①ルールの説明、基本練習、競技会 ③競技会 評価 3) フリスビー（1週）：①ルールの説明と競技（距離投げ、的当て） 評価 4) ソフトバレー（2週）：①ルールの説明と基本練習 ②試合（班別対抗リーグ戦） 評価

[評価] 1) 基本技能とゲームの結果の総合評価 2) 授業への参加態度（意欲・協調性・安全面・積極性・ルールを守る態度）の評価 3) 健康な生活への取り組みと実践的態度の評価。

授業進度

1期 5/1 ~ 6/19 (8週)

1班 テニス、2班 サッカー、3班 バスケットボール、女子 ニュースポーツ

2期 9/4 ~ 10/23 (8週)

1班 サッカー、2班 バスケットボール、3班 ニュースポーツ、女子 テニス

3期 10/16 ~ 12/4 (8週)

1班 バスケットボール、2班 ニュースポーツ、3班 テニス、女子 サッカー

4期 12/18 ~ 2/19 (7週)

1班 ニュースポーツ、2班 テニス、3班 サッカー、女子 バスケットボール

授業科目 英語Ⅲa	担当教官 松田 由美	開講期 通年
対象学年 3年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書：『PROGRESSIVE Oral Communication B』 大八木廣人 他 副教材：『英会話・ぜったい・音読 入門編』 國弘正雄編 『英会話・ぜったい・音読』 國弘正雄編 参考書：『四訂版チャート式基礎からの新総合英語』 高橋 潔 他 『データベース 3000 基本英単語・熟語』 田中茂範	尚学図書 講談社 講談社 数研出版 桐原書店	
授業目標 英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力について、基本的な技能・知識の習熟と完成を図り、各領域の応用・発展的な技能・知識を伸長に取り組む。 このコースでは特に音読を中心とした英語運用能力の向上と基本的な文法事項の強化を目指す。		
授業の進め方 授業は大きく3つに別れる。 ① 比較的平易な文章を理解し、音読を繰り返すことによりそれらの文章を習得する作業。 ② これまでに学んだ基礎・基本的文法事項を文法項目ごとにまとめて整理することにより、その習熟と完成を図る活動。 ③ 第一の作業と第二の活動をもとに様々なトピックについて聴き取り、自らの体験を英語で表現できるようにする。 授業においては、学生の授業中の積極的な言語活動への参加を重視する。長期休暇中には、授業で取り組む教材を復習する課題として与える。また、語彙力増強のための指導や、基礎・基本的事項完成のための問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。		
授業内容 前期 第1週 L1: Meeting People L2: Fun and Interests L3: School Life L4: House and Home L5: Shopping 第7週 第8週 中間試験 第9週 L6: Friendship L7: Places L8: Weather L9: Customs L10: Food and Drink 第14週 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 L11: Health L12: Travel L13: Stories L14: Our Future L15: Services 第7週 第8週 中間試験 第9週 L16: People Around Us L17: Different Worlds L18: Saving Our Planet L19: Screenplays 第14週 第15週 学年末試験 *『音読』については、別途指示する。	
成績評価の方法 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。加えて、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、定期考査を総合して評価する。ただし、音読に用いる教材はレッスンごとに音読、あるいは暗唱による習得状況を確認し、評価する。		
学生へのメッセージ まずは英語に触れる時間を増やすようにしましょう。1年間しっかりコース内容に取り組めば、中学から高専2年生までで学習してきたことの総復習に加えて、英会話も格段に上達することになるでしょう。英語力をつけるには『継続こそ力なり』。		

授業科目 英語Ⅲb	担当教官 山田 章則	開講期 通年
対象学年 3年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書 『合格最速ナビゲーター・英検準2級』 加藤栄政編 参考書 『即戦ゼミ 11 大学入試ベストポイント 英語頻出問題 740』 上垣暁雄編 『PROGRESSIVE Oral Communication B』 大八木廣人 他著 『データベース 3000 基本英単語・熟語』 田中茂範, 著 *なお、随時ハンドアウトを配布する。	(旺文社) (桐原書店) (尚学図書) (桐原書店)	
授業目標 3年生においては、英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能について、基本的な技能・知識の習熟と完成を図り、各技能の応用力を伸張させることを目指す。 特にこのコースでは、日常生活や職場における、総合的なコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目標とする。そして、英検準2級に、このコースを履修することで合格できることを目指す。		
授業の進め方 授業は、下記の3つの部分から構成する。 ①英語の語法・文法・構文・イディオム・単語について、まとめと応用力を養う。(『即戦ゼミ 11』『データベース 3000』) ②「聞くこと」「話すこと」について、日常生活や職場における基本的な技能を修得する。(『Oral Communication B』) ③英語の4つの技能について、実践的なコミュニケーション能力を養う。(『合格最速ナビゲーター・準2級』および教材ハンドアウト)		
授業内容 前期 第1週 Introduction Part 1 Section 1 Section 2 Part 6 : Section 1 第7週 第8週 中間試験 第9週 Part 1 Section 3 Section 4 Part 6 Section 2 第14週 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 Part 2 短会話文完成問題 Part 3 Part 6 Section 3 第7週 第8週 中間試験 第9週 Part 4 Part 5 実力判定模試 第14週 第15週 学年末試験 *『音読』については、別途指示する。	
成績評価の方法 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。加えて、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、定期考査を総合して評価する。		
学生へのメッセージ 専門の技術者として社会で生き残っていくためには、基礎的な英語力が必要である。この1年間実践的な英語を学習することによって、きっと明るい未来が開ける。本当の英語力をつけるには『継続こそ力なり』。		

授業科目 英語Ⅲc	担当教官 小山 賢吉 前山 桂子	開講期 通年
対象学年 3年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書 『英検2級予想問題集』(旺文社) 参考書 『PROGRESSIVE Oral Communication B』大八木廣人, 他著(尚学図書) 『即戦ゼミ3基礎英語頻出問題総演習[最新三訂版]』上垣暁雄, 著(桐原書店) 『データベース3000基本英単語・熟語』田中茂範, 著(桐原書店) *なお, 随時教材ハンドアウトを配布する。		
授業目標 3年生においては, 英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能について, 基本的な技能・知識の習熟と完成を図り, 各技能の応用力を伸張させることを目指す。 特にこのコースでは, 日常生活や職場における, 総合的なコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目標とする。そして, 英検2級に, このコースを履修することで合格できることを目指す。		
授業の進め方 授業は, 下記の3つの部分から構成する。 ① 英語の語法・文法・構文・イディオム・単語について, まとめて応用力を養う。(『即戦ゼミ3』『データベース3000』) ② 「聞くこと」「話すこと」について, 日常生活や職場における基本的な技能を修得する。(『Oral Communication B』) ③ 英語の4つの技能について, 実践的なコミュニケーション能力を養う。(『2級予想問題集』および教材ハンドアウト)		
授業内容 前期 第1週 第1章 § 1 同意語・反意語 第2週 第1章 § 2 多義語・派生語など 第3週 第2章 § 1 名詞・代名詞 第4週 第2章 § 2 動詞・助動詞 第5週 第3章 § 1 基本的な会話表現 第6週 英検2級予想問題演習(1) 第7週 第4章 § 1 空所補充文 第8週 中間試験 第9週 第1章 § 3 同意・反意熟語 第10週 第2章 § 3 準動詞 第11週 第2章 § 4 形容詞・副詞 第12週 第3章 § 2 場面別会話表現 第13週 第4章 § 2 英問英答文 第14週 第4章 § 3 グラフ・表が付記されている文 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 第1章 § 4 群動詞 第2週 第2章 § 5 関係詞 第3週 英検2級予想問題演習(2) 第4週 第2章 § 6 仮定法 第5週 第3章 § 3 問いかけの表現 第6週 第4章 § 4 新聞 第7週 第4章 § 5 広告 第8週 中間試験 第9週 第1章 § 5 まぎらわしい熟語 第10週 第1章 § 6 カタカナ語・時事用語など 第11週 第2章 § 7 比較 第12週 第2章 § 8 重要構文 第13週 英検2級予想問題演習(3) 第14週 第4章 § 6 段落中の語句整序 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 日常的に, 予習が十分になされていること, 授業に積極的に参加できること, クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への積極的な参加ができることを評価する。また, 提出された課題, また中間試験・期末試験の成績を併せて評価する。		
学生へのメッセージ 何よりも, 英語を大好きになってほしいと思います。この1年で, 質量ともに, たくさんのことを身につけてもらうこととなります。覚悟してがんばっていきましょう。1年間で3回の英検2級受験の機会があります。この1年で確実に2級に合格しましょう。そして, 次の目標, 英検準1級や1級に挑戦して欲しいと願っています。しっかりがんばりましょう!		

授業科目 英語Ⅲd	担当教官 宇ノ木 寛文	開講期 通年
対象学年 3年	単位数 4単位	必修・選択の別 必修
教科書 『PROGRESSIVE Oral Communication B』大八木廣人 他 尚学図書 『21世紀の科学系総合英語』 椋平 淳 他 松柏社 参考書 『即戦ゼミ3基礎英語頻出問題総演習[最新三訂版]』上垣暁雄 桐原書店 『四訂版チャート式基礎からの新総合英語』高橋 潔 他 数研出版 『データベース3000基本英単語・熟語』田中茂範 桐原書店		
授業目標 英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力について, 基本的な技能・知識の習熟と完成を図り, 各領域の応用・発展的な技能・知識の伸長に取り組むとともに, 特にエンジニアに必要な英語の基礎を身につけることを目標とする。		
授業の進め方 ① 英語による簡単なプレゼンテーションを行うことを目標に, 聞くこと, 話すことの訓練を毎時行う。 ② 工学に必要な文章読解力を伸長するために, 客観的記述による文章の読解を行う。 ③ 工学に必要な語彙力, 構文・文法の力を増強するために, テキストに基づく小テストを行う。 ④ 実践的な英語運用能力涵養のため, インターネット等を用いて英語による情報収集, 発表の作業を随時行う。		
授業内容 前期 第1週 『21世紀の科学系総合英語』 Unit 1 - Unit 5 第7週 第8週 中間試験 第9週 『21世紀の科学系総合英語』 Unit 6 - Unit 10 第14週 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 『21世紀の科学系総合英語』 Unit 11 - Unit 15 第7週 第8週 中間試験 第9週 『21世紀の科学系総合英語』 Unit 16 - Unit 20 第14週 第15週 学年末試験 *前・後期ともに, 『即戦ゼミ3』と『PROGRESSIVE Oral Communication B』の扱いに関しては, 授業中別途指示する。	
成績評価の方法 授業への積極的参加と, クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組み, とりわけオールコミュニケーション活動への取り組みは高く評価する。そして, 授業中の取り組み状況, 定着度確認テスト, 授業外で取り組む課題, 加えて, 定期考査を総合して評価する。特に, 語彙力, 及び構文・文法力増強の面については, 毎時に行う小テストを重視する。		
学生へのメッセージ 4年生以降における専門分野の学習を視野に入れ, それに資するように, 積極的にリサーチやプレゼンテーション等の授業内外での活動や課題に取り組ましましょう。また, 英語での情報検索・収集など, 将来のエンジニアとして実践的な英語力が身くよう心掛け, お互い頑張りましょう。		

授業科目 English Conversation III	担当教官 Gail Braybrooks	開講期 通年
対象学年 3年全学科	単位数 1単位	必修・選択の別 必修
Textbook The teacher's hand-outs will be given to students.		
Goal To learn English for conversation with English-speaking friends.		
What to study Understanding what you hear and answering back in English		
Teaching methods Topic-centered listening and speaking; 2-person conversation practice and games, as well as video lessons and music.		
Contents of the First Semester Introduction Canada video Mr. Bean video Shopping in America "Rummy" Card Game Mr. Bean video Friends Love Making Plans "Skip Bo" Card Game Life at Kosen Review Term Examination	Contents of the Second Semester Health/Eye analysis "Find somebody who ..." Crossword Puzzle. Music Treasure Hunt Dice Poker Dream House Card Game: "Knock" "Sequence" game 4WD Road Race Mr. Bean Video "Pictionary" Game The Year 20/20 Superstitions/Astrology Review Term Examination	
Evaluation Your grade will come from the 1st and 2nd semester tests. If you don't do the speaking lessons in class, you can lose points from your final grade.		
学生へのメッセージ This class is a good chance for you—don't miss it. There is a whole, new world outside your own language: travel, jobs, friends, information, shopping, music, etc. Why not try? English isn't as hard as you think!		

授業科目 保健体育	担当教官 宅島 章 河野宗夫	四宮一郎 坂川正信	開講期 通年
対象学年 4年	単位数 2単位	必修・選択の別 必修	
教科書 参考書 適宜参考文献、資料等を配布する。			
授業目標および学生へのメッセージ 1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。 2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。 4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。			
授業の進め方 4年生の保健体育は、男子3班、女子1班を編成し、ゴルフ、卓球、バドミントン、テニスの4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。			
授業内容 A. ゴルフ（野球場および第2グラウンド）：宅島 章 [目的] ゴルフプレーヤーは、若い人から実年者まで幅広く、体力・体格・性別を問わず楽しむことのできる比較的安全な紳士・淑女のスポーツである。しかし、マナーやルールを遵守しないと大きな事故を引き起こすことも多々あるので、まず安全第一の授業を展開する。 [授業内容] 第1段階①授業での約束ごと、②用具、③グリップ、④スタンス、⑤スイング 第2段階①ショート・アプローチ（15、30、50、80ヤード）また、雨天時は剣道場にてパターの練習を行う。 [評価] スキル・テスト：ショート・アプローチの距離感と方向性。その他、紳士・淑女のスポーツらしく、服装やマナー、及び出席状況等を考慮する。 B. 卓球（第二体育館）：河野宗夫 [授業内容] 卓球は、基本技術の後は、単（A～H、各班5名程度）・複（A～D、各班6組）に分け、全てリーグ戦を行なう。 [評価] 毎週の戦績によって入れ替えを実施し、最終戦のランキングで決定する。なお、無断欠席は2階級ダウンとする。このほか授業の参加態度、準備・後かたづけも評価に加味する。			

C. バドミントン (第1体育館) : 四宮一郎

[目的]

- 1) 3年生で習得したバドミントンの基本技術を活用して、ダブルスの形態でプレー出来るようにする
- 2) ゲームに参加していくための意欲や関心、態度、又自分の健康や安全への配慮だけでなく、集団としての健康や安全に関して配慮する態度を養う。
- 3) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

[授業内容]

○オリエンテーション (授業の目標、心得、約束ごと等)・グループ分け ○フライトの練習 (ドライブクリア、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ)、半面の簡易ゲーム ○ダブルスゲームのルール説明、試合の運営について ○ダブルスゲーム (A~F、各班5組)でのリーグ戦

[評価]

毎週の試合結果をもとに各グループ間の入れ替えを行い、最終戦のランキングで評価を決定する。また授業への参加態度 (意欲、協調性、安全面、ルールを守る態度) 授業への貢献度、及び出席状況等も考慮する。

D. テニス (テニスコート) : 坂川正信

[目的]

- 1) 幅広い年齢にわたって、しかも男女の区別なくプレイができ、生涯スポーツとして適している。
- 2) 技術面では様々な状況に応じたショット、体力面では敏捷性・瞬発力・持久力・柔軟性が要求され心理的にはプレッシャーに克つための精神力、ゲームへの集中力・判断力を必要とする。
- 3) ボールを踏んで捻挫や骨折したり、ボールが目当たり怪我をする危険性もあるので、練習中や試合中はボールの管理に十分注意する。また、ラケットで怪我をさせることもあるので、素振りやサービスの練習には十分注意する。
- 4) 応用の技術を習得し、正規のコートでダブルスのゲームを楽しむ。

[授業内容]

○フォアハンド・グランドストローク、バックハンド・ストローク、サービス、スマッシュ、ボレー等の基本技術を習得する。 ○正規のコートでダブルスのゲームを行う。

[評価]

- ①トーナメントやリーグ戦の結果を評価する。
- ②グランドストロークでのスキルテストを行い評価する
- ③道具の準備・後片付けやコートの整理、服装等も評価する。

授業進度

1期	4/16 ~ 6/18	(8週)	1班 ゴルフ	2班 卓球	3班 バドミントン	女子 テニス
2期	6/25 ~ 10/8	(8週)	1班 卓球	2班 バドミントン	3班 テニス	女子 ゴルフ
3期	10/15 ~ 12/3	(8週)	1班 バドミントン	2班 テニス	3班 ゴルフ	女子 卓球
4期	12/17 ~ 2/18	(7週)	1班 テニス	2班 ゴルフ	3班 卓球	4班 バドミントン

授業科目 英語IV	担当教官 宇ノ木 寛文 (前期4EC、後期4MB) 関 文雄 (前期4MB、後期4EC)	開講期 通年
対象学年 4年全学科	単位数 2単位	必修・選択の別 必修
教科書:『オンラインで学ぶVOA ライフ系総合英語』吉田信介 他 松柏社		
参考書:『Mastery 高校新基礎英語』河上道生 桐原書店 『WORD BANK4000』根岸雅史 桐原書店		
授業目標 3年次までに習得した「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力を、更に応用・発展的領域まで広げ、総合的な運用ができるようになることを目指す。		
授業の進め方 前期と後期で担当教官が交代するが、いずれの教官の授業においても、客観的記述による文章を読むことにより、専門課程での学習に資する読解力の向上を図るとともに、テキストの演習に沿って、聴解力や文章作成能力を伸長する訓練も行う。加えて、学習内容に関係したトピックについてのディスカッション等の活動や、インターネットを利用した簡単なリサーチワークも課す予定である。 また、宇ノ木教官担当の授業においては、語彙や構文の力をさらに増強するために、パソコン用英語学習ソフトを用いた学習も組み入れていく。		
宇ノ木教官授業内容 *4EC前期、4MB後期	関教官授業内容 *4MB前期、4EC後期	
第1週 『VOA ライフ系総合英語』より 3~4レッスン	第1週 『VOA ライフ系総合英語』より 3~4レッスン	
第7週	第7週	
第8週 中間試験	第8週 中間試験	
第9週 コンピュータ用学習ソフトを用いた授業 (第2電算室)	第9週 『VOA ライフ系総合英語』より 3~4レッスン	
第14週	第14週	
第15週 期末試験	第15週 学年末試験	
*『VOA ライフ系総合英語』で扱う箇所については、授業中別途指示する。		*『VOA ライフ系総合英語』で扱う箇所については、授業中別途指示する。
成績評価の方法 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。		
学生へのメッセージ この学年は、卒業研究等で英語を実際に学問に用いるための最後の準備の学年です。これまで学んだ事柄を確実に自分のものにすると同時に、実際に英語を使って情報収集を行ったり意思表明を行うことの訓練を通じて、英語を研究に役立てることができるようになることを目標に、一緒に頑張りましょう。		

授業科目 文化史	担当教官 小林幸人	開講期 通年
対象学年 4年 全科	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 『哲学・倫理学概論』(学術図書出版社) 参考書 適宜、授業中に紹介します。		
授業目標 高度に複雑化した現代社会を生きる私たちにとって、自ら考え、行動することは何より重要なこととなります。本講義では、思想史を通じて、さまざまな立場の考え方を学び、何よりも自ら考える方法身につけることを目標とします。 特に近代以降の思想史を取り扱うのは、現代社会に大きな影響を与えた社会背景や思想を通じて、私たちが生きる社会を捉えようという理由からです。従って、さまざまな思想を覚えるのではなく、思想が生み出されていく過程を追体験することにより、現代社会の在り方を考えるための基礎を養うという観点を忘れないようにしてください。		
授業の進め方 近代以降の哲学史を中心に、基本的にはテキストに沿って進めていきますが、要望に応じて関連する問題を取り扱います。		
授業内容 前期 第1週 ガイダンス：思想史を学ぶ目的と意義 第2週 中世から近代へ：ルネサンスと宗教改革 第3週 近代哲学の成立：自然科学と哲学 第4週 デカルトの思想 第5週 ベーコンの思想 第6週 近代科学と近代哲学の影響 第7週 社会契約論 第8週 中間試験 第9週 カントの思想(1)：理論哲学 第10週 カントの思想(2)：実践哲学 第11週 ヘーゲルの思想(1) 第12週 ヘーゲルの思想(2) 第13週 功利主義(1) 第14週 功利主義(2) 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 社会主義思想(1) 第2週 社会主義思想(2) 第3週 実存主義(1)：近代哲学批判 第4週 実存主義(2) キルケゴール、ニーチェ 第5週 実存主義(3)：現象学運動 第6週 プラグマティズム(1) 第7週 プラグマティズム(2) 第8週 中間試験 第9週 現代哲学(1)：言語と思想 第10週 現代哲学(2)：世界の捉え方 第11週 現代哲学(3)：理性とは 第12週 現代の諸問題(1)：環境倫理など 第13週 現代の諸問題(2)：生命倫理など 第14週 思想と人間 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 授業態度、試験、レポート等で評価する。試験は論述式で行う予定。		
学生へのメッセージ 思想史を学ぶ上で問題となるのは用語の難しさです。授業では、出来るだけ簡単な言葉で説明するつもりですが、やむを得ず、専門用語を用いる場合があります。毎回、質問票を配りますので、分からないことがあれば、積極的に質問してください。		

授業科目 日本文学・文章表現	担当教官 道園達也	開講期 通年
対象学年 4年全	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 『日本の近代小説』(近代文学研究会 協和書房) 参考書		
授業目標 【前期】明治からの日本の代表的な小説をとりあげ、多様な表現形式に触れることによって、文学に対する理解と認識を深める。 【後期】実用的な国語力を総合的に高める。		
授業の進め方 【前期】読解時、内容を段階的にとらえたり、問題点を引き出ししたりしながら、作品全体の把握に努め、近代の小説の読解と鑑賞、さらに日本の近代との関連についても考える。 【後期】ドリル形式で国語力をチェックし、補強すべき分野を自覚させる。		
授業内容 前期 第1週 文学研究の方向・小説の諸要素 第2週 「十三夜」(樋口一葉) 第3週 「十三夜」(樋口一葉) 第4週 「破戒」(島崎藤村) 第5週 「破戒」(島崎藤村) 第6週 「三四郎」(夏目漱石) 第7週 「三四郎」(夏目漱石) 第8週 (中間試験) 第9週 「田舎教師」(田山花袋) 第10週 「田舎教師」(田山花袋) 第11週 「范の犯罪」(志賀直哉) 第12週 「金閣寺」(三島由紀夫) 第13週 「金閣寺」(三島由紀夫) 第14週 「留学」(遠藤周作) 第15週 (期末試験)	授業内容 後期 第1週 文字・語句の使い方 第2週 文字・語句の使い方 第3週 言葉のきまり 第4週 言葉のきまり 第5週 敬意の表し方 第6週 敬意の表し方 第7週 敬意の表し方 第8週 (中間試験) 第9週 わかりやすく正確に書く 第10週 わかりやすく正確に書く 第11週 わかりやすく正確に書く 第12週 わかりやすく話す 第13週 正しく適切に聞く 第14週 「日本語運用能力」診断 第15週 (学年末試験)	
成績評価の方法 定期試験とレポート等の成績を総合して行う。		
学生へのメッセージ 受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチし、文学世界のおもしろさの一端に触れ、自分の日本語運用能力補強を行って欲しい。 能動的になってもらうために、レポート・ドリルを課すので、そのつもりで受講して欲しい。		

授業科目 法学	担当教官 山中至	開講期 通年
対象学年 4年	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 「法の世界へ(第2版)」池田真朗ほか 有斐閣 2000 「デイリー六法 2002」佐藤幸治ほか 三省堂 参考書 授業の祭に案内		
授業目標 現代社会の中で生起するさまざまな問題を「法」という眼でみつめるための基礎理論を提供することを目標にします。		
授業の進め方 社会生活・家庭生活・職業生活で最低限知っておきたい法律知識や考え方を、日常身近な問題との関わりの中でわかりやすく解説します。		
授業内容 前期 第1週 法学を学ぶにあたって 第2週 (売買)契約とは何か 第3週 契約による不動産の物権変動 第4週 不動産物権変動における対抗要件主義 第5週 契約による動産物権変動の対抗要件 第6週 公信の原則 第7週 債務不履行 第8週 中間試験 第9週 不法行為とは何か 第10週 故意・過失 第11週 権利侵害 第12週 責任能力 第13週 正当防衛・緊急避難 第14週 慰謝料 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 使用者責任 第2週 自動車損害賠償保障法・製造物責任法 第3週 医療過誤訴訟の法律構成 第4週 家族法とは何か 第5週 婚姻、親子、扶養 第6週 離婚 第7週 相続 第8週 中間試験 第9週 労働法とは何か 第10週 労働基準法 第11週 労働契約・就業規則・労使協定・労働協約 第12週 株式会社とは何か 第13週 株主総会・取締役会・代表取締役・監査役 第14週 商人・商行為・商業使用人 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 主として、論述式の定期試験により講義内容の理解度を判断、評価します。		
学生へのメッセージ 「覚える」のではなく「自分で考える」		

授業科目 経済学	担当教官 時松雅史	開講期 通年 週2時間
対象学年 4年MECB(希望者のみ)	単位数 単位 2	必修・選択の別 選択
教科書 『経済原論』日高晋 有斐閣 参考書 授業内容に関連したプリントを配布		
授業目標 経済学がどのような学問かを知らうとともに、資本主義経済(市場経済)に貫徹する諸法則を大まかに理解する。その上で現代の社会現象を経済学的に考えることのできる能力を養成する。授業の後半は、日本経済の発達を概観しながらその変容について理解させる。さらに、自分たちが住んでいる地域の経済にも関心を持たせる。		
授業の進め方 教科書とプリントを読ませながら、内容について解説する。授業に関連したビデオも教材として使用する。		
授業内容 前期 第1週 経済学とは何か。 第2週 経済学の歴史 第3週 流通論 商品 第4週 流通論 貨幣(1) 第5週 流通論 貨幣(2) 第6週 流通論 資本(1) 第7週 流通論 資本(2) 第8週 中間試験 第9週 資本の生産過程 第10週 資本の流過程 第11週 現代の資本市場(1) 第12週 現代の資本市場(2) 第13週 資本の再生産過程(1) 第14週 資本の再生産過程(2) 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 分配論 利潤 第2週 資本主義における人口法則 第3週 分配論 地代 第4週 ケネーの経済表 第5週 江戸時代のモノの流れと信用制度の発達 第6週 江戸の豪商と信用制度 第7週 明治期における農村の変化 第8週 中間試験 第9週 日本の戦後復興 第10週 日本の高度経済成長 第11週 資本・貿易の自由化と産業政策 第12週 低成長期を迎えた日本 第13週 熊本県の工業開発と八代 第14週 熊本県内の商店街 戦前と現在 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 定期試験を軸に評価する。		
学生へのメッセージ 丁寧に教科書、プリントを読み、解説を聞くこと。疑問点やわからない点があればその場で質問してほしい。		

授業科目 ドイツ語	担当教官 目 正勝	開講期 通年
対象学年 4年全	単位数 2単位	必修・選択の別 選択必修
教科書 「はじめてのドイツ語コミュニケーション」 小川 さくえ 他著 白水社		
辞書 「新アポロン独和辞典」		
授業目標 ドイツ語の文法の基礎を身につけて、ドイツ語文を辞書を引きながら和訳したり、簡単な日本語文を独作文したりすることができるようになることを目標とする。		
授業の進め方 テキストに従いながら進み、各課の本文の和訳や練習問題などの発表をしてもらう。		
授業内容 前期 第1週 発音、辞書のひき方、動詞の現在人称変化など。 第2週 〃 第3週 〃 第4週 名詞、冠詞類。 第5週 〃 第6週 〃 第7週 代名詞、会話の文。 第8週 〃 第9週 〃 第10週 前置詞、命令形など。 第11週 〃 第12週 〃 第13週 形容詞の用法など。 第14週 〃 第15週 〃	授業内容 後期 第1週 話法の助動詞。 第2週 〃 第3週 〃 第4週 動詞の三基本形、過去形、現在完了など。 第5週 〃 第6週 〃 第7週 受動態、分詞、z u不定詞。 第8週 〃 第9週 〃 第10週 関係代名詞 第11週 〃 第12週 〃 第13週 接続法 第14週 〃 第15週 〃	
成績評価の方法 試験に拠るほか、レポートの提出状況、授業態度なども加味する。		
学生へのメッセージ		

授業科目 中国語	担当教官 宮崎 龍介	開講期 通年
対象学年 4年全	単位数 2単位	必修・選択の別 選択必修
教科書 「キャンパスライフ中国語」(荒川 ほか著 白帝社)		
参考書 「プログレッシブ中国語辞典」(小学館)		
授業目標 日本語とは関係が深いとはいえ、ずいぶん異なる中国語の発音とリズムをマスターする。また、日常の会話文を通して、初歩的な文法と構文を習得していく。さらに言葉の背景にある中国の人、歴史、文化、社会等に関心を持っていく。		
授業の進め オーラルトレーニングが中心となるので、毎回できるだけ多くの学生を指名していく。週一回なので、付属のCDを活用し、十分な自主学習をして授業にのぞむ必要がある。		
授業内容 前期 第1週 ガイダンス・発音 第2週 発音 第3週 発音 第4週 代名詞 第5週 動詞“是” 第6週 名詞述語文 第7週 動詞述語文 第8週 中間試験 第9週 方位詞 第10週 存在文 第11週 形容詞述語文 第12週 構造助詞“的” 第13週 助詞“了” 第14週 前置詞 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 動詞の重ね型 第2週 助動詞 第3週 連動文 第4週 選択疑問文 第5週 アスペクト助詞 第6週 結果補語 第7週 比較文 第8週 中間試験 第9週 方向補語 第10週 可能補語 第11週 仮定 第12週 状態補語 第13週 “把”構文 第14週 受け身文 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 定期試験と平常点(出席、課題提出、授業態度)との総合評価。		
学生へのメッセージ 世界における中国の地位向上、日本との各分野での関係の深まりとともに、中国語はこれからますます重要視される言語となります。“元気な”中国語を大きな声を出して元気よく学びましょう!!		

授業科目 哲学	担当教官 小林幸人	開講期 通年
対象学年 5年 全科	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 特に指定しません 参考書 『現代哲学への招待』 城塚登他 有斐閣選書 『科学哲学』 小林道夫 産業図書		
授業目標 本講義では、現代社会における様々な問題を哲学的に考察することを通じて、幅広い視野で実際の問題を捉える訓練をおこなうことを目標とします。従って、哲学的思想を覚えるのではなく、さまざまな考え方を学びながら、自分なりの考えを示すこと、つまり、「哲学を学ぶ」のではなく、「哲学すること」を試みます。		
授業の進め方 提示される諸問題についての様々な考え方を紹介しながら、テーマごとに受講者のみなさんの考え方をまとめてもらいます。テーマについては、予め用意しておきますが、要望に応じてテーマを設定したいと思います。		
授業内容 前期 第1週 ガイダンス：授業の進め方、文献案内 第2週 問題提起：認識の方法（仮）—真理の方法 第3週 1. 主観と客観：デカルトとカント 第4週 2. 合理主義：検証と反証 第5週 3. 科学的相対主義 第6週 4. 様々な真理概念 第7週 5. 総括 第8週 中間試験 第9週 問題提起：合理性概念をめぐって（仮） 第10週 1. 世界の合理化と政治のテクノロジー化 第11週 2. 道具的理性と対話的理性 第12週 3. 合理的なるものと非合理的なるもの 第13週 4. 社会の合理化とは何か 第14週 5. 総括 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 問題提起：科学・技術と人間（仮） 第2週 1. 近代科学の精神 第3週 2. 技術支配と人間性 第4週 3. ハイデガーの技術論 第5週 4. 現代の諸問題（1） 第6週 5. 現代の諸問題（2） 第7週 6. 総括 第8週 中間試験 第9週 問題提起：個人、他者、世界（仮） 第10週 1. 世界の捉え方：生活世界とは 第11週 2. 「私」を考える：自我形成の問題 第12週 3. 私と他者 第13週 4. 個人、他者および世界 第14週 5. 総括 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 授業態度、試験、レポートで評価する。試験は論述式でおこなう予定。		
学生へのメッセージ 哲学は対話の上に成り立ちます。積極的に授業に参加し、質問、意見等を表明してください。レポートについては、テーマごとに提出してもらいますが、独りよがりにならず、出来るだけ、様々な考え方を踏まえた上で、自分なりの考え方を示すことを心がけてください。		

授業科目 人文社会特論（美術史）	担当教官 佐藤伸二	開講期 通年 週2時間
対象学年 5年MECB（希望者のみ）	単位数 単位 2	必修・選択の別 選択
教科書 下の参考書などで作ったプリント資料を配布する。 参考書 『やきもの』吉田光邦 NHKブックス、『やきもの文化史』三杉隆敏 岩波新書 『中国陶磁史』佐藤雅彦 平凡社、『古陶磁のみかた』林屋春三 第一法規		
授業目標 焼き物の分類や用語についての基本的な知識を身につけさせ、中国の焼き物の歴史を中心に世界全体のやきものの歴史の概要を理解させる。これらを基礎に、日本のやきものの特色を歴史的に理解させ、そこに見られる日本人の美意識について考えさせる。		
授業の進め方 プリント資料を説明し、やきものの写真を見せる。やきもの関係の展覧会を博物館まで見に行くこともある。授業後、毎回短い感想や質問を書かせる。		
授業内容 前期 第1週 はじめに（日本人とやきもの） 第2週 やきものの分類と特色 第3週 やきものの原料と製作法 第4週 やきものの焼成と発色 第5週 中国のやきものの概観 第6週 灰釉陶から越州青磁へ 第7週 緑釉と三彩 第8週 中間試験 第9週 玉をめぐらした青磁 第10週 定窯白磁と景德鎮白磁 第11週 黒磁と曜変天目 第12週 染付磁器の成立と発展 第13週 色絵磁器の成立と発展 第14週 粉彩（軟彩）磁器の成立 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 朝鮮半島のやきものの概観 第2週 三国・統一新羅時代のやきもの 第3週 高麗青磁の成立と展開 第4週 李朝の白磁と染付技法の展開 第5週 日本の中世以前のやきものの概観 第6週 先史・古代の土器と陶器 第7週 中世のやきものと輸入陶磁器 第8週 中間試験 第9週 近世のやきものの概観 第10週 茶の湯と茶陶 第11週 有田の染付磁器とオランダ東インド会社 第12週 色絵磁器と柿右衛門 第13週 色絵陶器と仁清 第14週 民窯と民芸運動 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 年4回の定期試験と授業後に書かせる感想により評価する。		
学生へのメッセージ 私語をせずに話を聞き、写真をよく見ること。		

授業科目 言語学	担当教官 今西利之	開講期 通年 週1時間
対象学年 5年MECB (希望者のみ)	単位数 単位 2	必修・選択の別 選択
教科書 庵功雄『新しい日本語学入門』(スリーエーネットワーク) 参考書 ※ 教科書の購入方法は授業中に指示します。また、適宜資料を配布します。		
授業目標 私たちは母語である日本語を無意識のうちに使っています。しかし、ここで少し立ち止まって考えて見ましょう。「私は山田です。」という文と「私が山田です。」という文は何が違うのでしょうか。「昨日博多に行ったとき、つばめに乗った。」という文はどうして座りが悪いのでしょうか。「し」をローマ字表記するとき、どうして「shi」と書くのでしょうか。この授業では、このような素朴な疑問をもとに、日本語の中に隠されているさまざまな仕組みについて一緒に考えていきます。さらに、方言やキャンパス言葉についても考えていく予定です。		
授業の進め方 教科書に基づく講義形式の授業ですが、積極的な発言を求めます。また、調査をしてもらうこともあります。		
授業内容 前期 第1週 日本語学概説 第2週 音声 第3週 音韻 (ローマ字表記の問題) 第4週 アクセント 第5週 形態論 (1) 第6週 形態論 (2) (活用表の問題) 第7週 格 第8週 中間試験 第9週 文の構造 (「命題」と「モダリティ」) 第10週 主題 (「は」と「が」) 第11週 とりたて 第12週 ヴォイス (1) (「受身」「使役」) 第13週 ヴォイス (2) (「授受構文」) 第14週 動詞の自他 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 テンス 第2週 アスペクト 第3週 モダリティ 第4週 複文 第5週 名詞修飾 第6週 談話 第7週 敬語 第8週 中間試験 第9週 方言 (1) (日本語の方言概説) 第10週 方言 (2) (熊本方言) 第11週 言葉のゆれ 第12週 若者言葉・キャンパス言葉 第13週 計量的考察 第14週 まとめ 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 テストの成績と出席状況、及び授業での発言の様子などから総合的に判断します。		
学生へのメッセージ 言語学、文法という言葉が持つイメージが変わることを願っています。		

授業科目 健康科学	担当教官 宅島 章 四宮一郎	開講期 通年
対象学年 5年	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 参考書 適宜参考文献、資料等を配布する。		
授業目標および学生へのメッセージ 〔健康・スポーツ科学概論〕 近代化が進んだ文明国における労作は、ヒトに代わって全て機械が行っていると言っても過言でない現状にある。その機械化の浸透は、私たちの日常における身体活動を行う機会を奪い、自らの高い体力は要求されず、もっぱら機械にたよる日常生活に移行している。その結果、ヒトは知らず知らずの内に、その環境に適応し身体における筋・骨格系、心臓血管系などの機能を低下させている。身体活動の減少による弊害、すなわち生活習慣病を未然に防ぐには日常生活において積極的に運動を行うことが望ましい。しかし、運動はすれば良いというものではなく、やり方次第では逆に健康を損なうこともある。そこで、本講義においては健やかな人生を送るための生涯体育という見地より自己測定などを折り込みながら、展開していきたい。		
〔トレーニング論〕 体力や競技力を向上させるためには、トレーニングが欠かせないものであることは言うまでもない。しかし、全ての人々が自分に適切なトレーニング法を理解しているかは疑問である。トレーニングにおいては体力と技術の関連をよく理解して、目指す体力や技術が最も効率的に十分に高められる方法を用いてトレーニングしていくことが望まれる。そこで本講義では、一般の人から競技者までを対象としたトレーニング方法やその効果についても理解を深め、実践できる能力と態度を育てたい。		
授業の進め方 選択履修者は第一体育館に集合 (資料、筆記用具持参、体操服着用) し、健康科学に関する講義 (前期担当 宅島 章、後期担当 四宮一郎) を受講する。その後、Aコースはゴルフ (担当: 宅島 章) Bコースはレクリエーション (バドミントン、ローラースケート。担当: 四宮一郎) に分かれる。		
授業内容 前期 「健康・スポーツ科学概論」 1. 現代人の健康 2. 健康づくりと運動 3. 運動と栄養	授業内容 後期 「トレーニング論」 1. 運動処方 2. 運動のやり方 3. 体力とトレーニング	
Aコース: ドライバーとミドルアイアン。 ショートアイアンとバンカーショット。 コース想定レッスン。 秋季学生コンペ 高専祭代休日 八代ゴルフ倶楽部 各人の技術向上レッスン 春季学生コンペ 八代ゴルフ倶楽部		

<p>Bコース：バドミントン（前期） バドミントンの基本ショット（ドライブ、クリア、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ） フットワーク 総合技術の練習（各種ショット、サーブ、フットワーク） 半面シングルスゲーム ダブルス、シングルスゲーム</p> <p>ローラースケート（後期） 基本動作（基本姿勢、自然滑走） 前進滑走の技術（両足の推進滑走、ひょうたん滑走、フォアストローク） バック滑走の技術（両足バック滑走、バックのひょうたん滑走、バックストローク） カーブ滑走の技術、ストップの技術、ターンの技術</p>
<p>成績評価の方法 「健康・スポーツ科学概論」 6月の前期中間試験と9月の自己測定等を含めたレポート（テーマは後日発表）及び小テスト（小論文によって行う）。</p> <p>「トレーニング論」 後期中間試験、学年末試験で評価を行う。</p> <p>Aコース：4年生までに学習したゴルフを基礎に、学外のゴルフ・コースにてプレーができるルール、マナー、応用プレー等を修得し、秋（11月）と春（3月）に開催予定の本校学生ゴルフ・コンペに参加できる技量を身につける。評価は、授業に取り組む姿勢（技術習得への研究心や服装・マナー等）と各種スキルテストによって行う。</p> <p>Bコース：バドミントンにおいては4年次に学んだ基本技術をさらに高め、ダブルス、シングルスゲームを楽しむ。また、ローラースケートにおいては基本的な滑走技術を習得し、基本滑走を組み合わせたプログラムを作り、スケーティングを楽しむことが出来るようにする。評価は技術の習熟度、ゲーム結果（バドミントン）と出席状況及び授業参加態度等を考慮して評価する。</p>

授業科目	ドイツ語	担当教官	目 正勝	開講期	通年
対象学年	5年全	単位数	2単位	必修・選択の別	選択
教科書	「兵士ニキータの死」 小野寺 和夫 編著 行人社				
授業目標	ドイツ語の平易な読み物と取り組んで、読解力を養う。テキストは現代ドイツ語の短編小説である。辞書を引きながら一語一語、一文一文を丹念に調べて、読んでゆく。				
授業の進め方	和訳を発表してもらい、それを検討する。前もって割り当てておくので、当てられた人はよく調べてこななければならない。文法の説明を補足したり、関連する練習問題をしたりもする。				
授業内容 前期	第1週	テキストの和訳。1回1～2ページずつ読んでゆく。	第1週	テキストの和訳。文法説明の補足。	
	第2週	〃	第2週	〃	
	第3週	〃	第3週	〃	
	第4週	〃	第4週	〃	
	第5週	〃	第5週	〃	
	第6週	〃	第6週	〃	
	第7週	〃	第7週	〃	
	第8週	中間試験	第8週	中間試験	
	第9週	テキストの和訳。接続法を学習する。	第9週	テキストの和訳。テキストの内容と関連した事柄。	
	第10週	〃	第10週	〃	
	第11週	〃	第11週	〃	
	第12週	〃	第12週	〃	
	第13週	〃	第13週	〃	
	第14週	〃	第14週	〃	
	第15週	期末試験	第15週	学年末試験	
成績評価の方法	定期試験、平素の学習成績を考慮して行う。				
学生へのメッセージ					

授業科目 中国語	担当教官 宮崎 龍介	開講期 通年
対象学年 5年全	単位数 2単位	必修・選択の別 選択
教科書 「朋アリ遠方ヨリ来タル」(相原 茂 ほか著 好文出版)		
参考書		
授業目標 短い会話スキットを暗唱しつつ、正しい発音を再確認し、既習の学習事項を復習する。 また、変貌の著しい中国社会の現状を反映した中国語の変化を新語の学習を通してとらえていく。		
授業の進め方 毎回、全員指名を原則とする。 週一回なので、付属のCDを十分活用した予習が不可欠である。		
授業内容 前期 第1週 発音復習 第2週 文法復習 第3週 外来語 第4週 中国語とアルファベット 第5週 色の表現 第6週 数の表現 第7週 疑問詞 第8週 中間試験 第9週 中国の大学 第10週 中国の小・中・高校 第11週 外国人名 第12週 外国地名 第13週 状態補語・結果補語 第14週 二重目的語・可能補語 第15週 期末試験	授業内容 後期 第1週 中国の食事 第2週 反復疑問文・選択疑問文 第3週 日中同形語 第4週 日中同形語 第5週 しゃれことば 第6週 しゃれことば 第7週 生活関連表現 第8週 中間試験 第9週 生活関連表現 第10週 生活関連表現 第11週 生活関連表現 第12週 生活関連表現 第13週 生活関連表現 第14週 生活関連表現 第15週 学年末試験	
成績評価の方法 定期試験と平常点(出席・課題提出・授業態度)との総合評価。		
学生へのメッセージ 中国語の習得は、社会に出ても、いつかきっと役に立つときがあります。 卒業後も引き続き学習されることを願っています。言葉の学習に終わりはありません。		